財団法人 日本ハンドボール協会編　平成22年 7月1日発行（毎月1回1日発行） 通巻510号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

6・7

JUN.JUL.2010・No.510

特集

第5回春の全国中学生選手権大会
第7回東アジアクラブ選手権



［表紙写真：第5回春の全国中学生選手権大会・男子優勝の大体大附属中・瀬利将太郎選手：写真提供・スポーツイベント社］

財団法人 日本ハンドボール協会

http://www.handball.jp/

新たなスタートを切る

……がんばれハンドボール20万人会



（財）日本ハンドボール協会参事　**中野 利一**

経過と現状

（財）日本ハンドボール協会では、過去に賛助会という組織がありました。これに代わり、「がんばれハンドボール10万人会」が平成11年にスタートすることになりました。日本全国でハンドボールに関わる人口を、まずは10万人を達成しようとして実施されたものです。内訳は、役員・選手・審判・会員（サポート会員）等の総計の人数です。会員を増やすことにより、「スポーツ界におけるハンドボール競技の知名度を上昇させるとともに、ハンドボール競技を発展させ活発にしよう」を目的としてスタートを切りました。

振り返りますと、当時は7万人台の会員数であったかと思います。その数も現在では、おかげさまをもちまして平成19年3月現在において10万人を突破することが出来ました。永らく日本では、少子高齢化が叫ばれ、さらに経済不況の煽りを受けその環境が著しく厳しくなっております。各スポーツ競技団体においても競技人口、選手の強化・育成、そして競技力の向上にと色々と対策に苦慮しているのが現実のようです。

新たなスタート

上記で述べました通り、「がんばれハンドボール10万人会」は、各都道府県協会・各連盟、団体の多大なるご協力によって一つの目標を達成することができました。改めまして感謝を申し上げます。

そこで、さらにステップアップを目指す目的で、名称を平成22年4月より「がんばれハンドボール20万人会」へ変更し、一部規約の改正をし新しくスタートを切りました。主な内容は、会員の種類に、新しく「特別法人会員」を追加、「フレンド会員」を削除し、会員の特典を一部変更しました。

今後ともご理解とご協力を頂きますようよろしくお願いを申し上げますとともに、ご意見・ご指導をお願いいたします。

サポート会員の加入について

サポート会員の更なる増大を願い、ここで加入の方法について改めて述べさせていただきます。「名誉会員」「特別法人会員」「特別会員」「グランド会員」「ファミリー会員」「ジュニア会員」の加入については、(財)日本ハンドボール協会にて直轄窓口にて行っておりますが、今後も従来の方法で加入者を募ってまいりたいと思います。尚、「ファミリー会員」は1名、「グループ会員」は3～5名で組織しての加入ですが、窓口は、各都道府県協会の担当者となっております。各都道府県協会の担当者は、（財）日本ハンドボール協会に加入会員の報告を御願いします。入会者増大の具体的方策として、特に一線を退いた高校のOB・OGの方々をハンドボール界の表舞台に引き戻すことや、各地域でのスポーツ少年団などが活発になってきておりますのでその保護者の方々、そして地元クラブで活動している方々等が加入していただければ、現会員数の倍増につながると思います。このようにして日本全国で、ハンドボールに関係する方々の数を増やし、行政機関・教育機関・マスコミ等にアピールし強い関心を持っていただき、さらに知名度を上げ、国民的スポーツになるよう努力をしていかなくてはなりません。

「20万人会」を充実し日本ハンドボール界の基盤構築に努め、サポート会員の組織化を目指したいと考えます。最後に、皆様方の力強い応援で悲願であるオリンピックへの出場を後押ししていきましょう。

平成21年度 第5回 春の全国中学生ハンドボール選手権大会



写真提供：スポーツイベント社

最終順位		
◆男子	優　勝	大阪体育大学附属中学校（大阪府）
	準優勝	長崎市立日吉中学校（長崎県）
	3　位	岩国市立岩国中学校（山口県）
		ヴァルト岐阜（岐阜県）
◆女子	優　勝	名古屋市立平針中学校（愛知県）
	準優勝	川崎市立西中原中学校（神奈川県）
	3　位	明石市立魚住東中学校（兵庫県）
		福井市光陽中学校（福井県）

第5回春の全国中学生ハンドボール選手権大会を振り返り

氷見市実行委員会事務局次長　**伊勢利弘**

本大会は、青少年があこがれ、目標とするスポーツ毎の拠点を形成し、スポーツの振興と地域の再生に寄与することを目的として平成17年度を初年度として10年間氷見市で開催するものです。

初年度、第2回大会では全国46都道府県から男女計92チーム、第3回大会では男女計93チーム、第4回大会では男女計91チームが参加して行われました。本年度は男子47チーム（島根県不出場）、女子46チーム（新潟県、島根県不出場）、男女計93チームが参加し、中学生が参加する全国スポーツ大会としては、最大規模の大会を開催することができました。

第3回大会から優勝チームに総務大臣杯が授与されるようになって、競技力の向上だけでなく、地域の活性化に向けた努力がいっそう求められるようになりました。

今大会の開会式では、石井隆一富山県知事、布村幸彦文部科学省スポーツ・青少年局長等、多くの来賓の方々にご臨席を賜り、全国の中学生ハンドボーラーに温かい励ましの言葉をいただきました。歓迎レセプションでは、「ほしのふるまち」の映画制作も話題になり、氷見市が舞台のヒロイン・渚は、ハンドボール部のエースとして活躍する姿が、2011年春に全国公開されることになりました。

競技は、昨年にも増して寒い日が続き雪のちらつく日もありましたが、全ての面で順調で、各チームが熱戦を展開して応援サポーターや市民も盛り上がり、予定通り終えることができました。毎年交流試合に積極的に参加し、5回目にしてはじめて勝利をあげた愛媛県のチームが3回戦まで勝ち進み、保護者や市民を喜ばせていました。

第3回大会から、大会前からも練習や交流試合会場を提供するようになり懸命に取り組んだので、会場は熱気に包まれ、参加チームにとってはたいへん好評でした。会場の提供や世話をしていただいた関係各位に、感謝しています。

そのほか、大会期間中長期滞在の疲れ等で体調を崩す選手がいたり、試合でけがをしたりした選手もいましたが、宿舎の皆様や医療機関、サポーターの皆様方の献身的なご支援により無事帰郷されました。

全国から訪れる人々を温かく迎え、また、選手が安心してプレーが出来るよう、市内各地区から応援担当サポーターの協力をいただき、チームや保護者とのさまざまな交流を図りました。応援サポーターがチームの実情を知って、回を重ねるごとに適切なサポートができるようになってきました。

氷見市の魅力を全国に発信し、競技力の向上と地域の活性化を目指した当初の目的は達成できました。







写真提供：スポーツイベント社

男子優勝チーム 大阪体育大学附属中学校（大阪府）

大阪体育大学附属中学校監督　逢坂静男

第5回春の全国中学生ハンドボール大会で、創部以来38年にして初めて優勝することができました。この優勝は昨年度の大会で優勝チームの愛知県はとり中学校に1回戦で敗退した悔しさを忘れることなく引きついでくれた選手たちのおかげです。また、生徒たちを支えていただいた保護者の皆様をはじめ、学校、関係各位のご協力、ご理解の賜物と厚く感謝いたします。また､練習に付き合ってくれた卒業生の皆様、高校生の皆様にもお礼を申し上げます。

この大会の予選会では、体調面の維持に大変苦労をしました。インフルエンザで高校が学級閉鎖、中学校でも感染が広がり、あと1～2人で学年閉鎖になるというところで、何とか持ちこたえ、予選大会に出場することができ胸をなでおろしました。

今年はエース的な選手はいませんが、目的意識が高く、それぞれ個性のもった運動能力の高い選手が集まりました。雨天の日は、午前7時から体育館で早朝練習、放課後は7時30分くらいまで頑張り、遠方の生徒は2時間弱の通学時間にもかかわらず、休まず真面目に取り組んだのが良い結果につながったのではないかと思います。

今大会で対戦した1回戦の清水第2（静岡県）は長身ぞろいで前半苦戦を強いられ、2回戦で戦った三松中学校（宮崎県）とは過去2回全国大会で当たり苦戦の末勝っているチームで、前評判でも優勝候補のチームでありましたが作戦通りの戦いで勝つことができました。3回戦は平山中学校（東京都)、準々決勝では、沖縄県の仲西中学校戦で前後半とも1～2点差のシーソーゲームで、前半終了15秒前に1点リードされましたが、残り時間3秒前にキャプテン瀬利がシュートを決め同点で前半終了となりました。

この1点が後半の試合展開に､大きく影響したと思います。後半に入っても前半同様の試合展開で22分に仲西中学校のエース東選手の欠場で3点の差がつきゲームセットとなりました。

この日はとても寒く、外は雪やみぞれで体調管理に神経が費やされました。準決勝､決勝戦としだいに緊張感が高まり、試合開始前に緊張感をほぐすため、声を出して特にチームのムードを良くして、お互いの結束を高め試合に臨みました。決勝戦の相手は長崎県の日吉中学校で、スピードのあるカットインプレーと､強力なロングシュートのあるチームでした。試合開始からリードするが追いつかれ、再び突き放すが、食い下がってくるチームで、後半16分過ぎに日吉のスピードが少し落ちた時に点差を開けられたのが勝因になったと思います。

この優勝は、努力した選手は勿論のこと、ベンチの9名もそれぞれの役割を担い、全員の力で勝ち取ったことにより、貴重な体験をし、大きく成長することができたと思います。

そして夏の全国大会、JOC大会に向けてさらに前進してくれると確信しています。私自身も教員生活後わずかとなりましたが、熱い気持ちを忘れることなく努力して参ります。

最後になりましたがこの大会を支えてこられた、日本ハンドボール協会、富山県ハンドボール関係者の皆様、ご多忙の中、最後まで親身になり応援いただいた氷見市のサポーターの皆様、本当にありがとうございました。



写真提供：スポーツイベント社

大阪体育大学附属中学校主将　瀬利 将太郎

僕たちハンドボール部は逢阪先生と平井コーチの厳しい指導のもと、仲間と励まし合い、先生方や家族そして友達に支えられ、春の全国大会に初めての優勝をすることができました。２回戦の宮崎県の三松中学校には大きく点差を広げたのに追いつかれ、前半は苦しい展開でした。しかし、後半はチームで話し合って守りを強くしようと約束をし、それがうまくいって大差で勝つことができました。準々決勝の沖縄県仲西中学校戦はシーソーゲームとなり、前半ラスト２秒で同点に追いつくことができました。後半みんなで気持ちを一つにして、シュートが入ればお互いに喜びあい、テンションを上げて最後には振り切ることができました。

準決勝の相手は、岐阜県のヴァルト岐阜戦で、練習試合では勝つことができませんでしたが、前の試合の仲西戦の勢いで、途中に同点に追いつかれても「絶対に勝てる」と強い気持ちで頑張った結果勝つことができました。

そしていよいよ決勝戦で選手紹介があり、胸がわくわくし、夢にまで見た一面のコートで試合ができ、いよいよここまで来たのだという実感が湧いてきました。決勝の相手は、長崎県の日吉中学校で、先制点を取られましたが、焦ることなく落ち着いて自分達のハンドボールをすることができました。これも毎日先生のご指導のもと頑張ってきた成果だと思います。

これからも更なる目標である夏の全国中学校大会優勝を目指して、日々の練習を怠ることなく頑張りたいと思います。

女子優勝チーム　名古屋市立平針中学校（愛知県）

名古屋市立平針中学校監督　熊谷博明

第５回春の全国中学生ハンドボール選手権大会におきまして、初出場で優勝させていただきましたことを心より嬉しく思っています。これもひとえに日頃からご支援ご協力をいただいている愛知県ハンドボール協会、名古屋市ハンドボール協会、愛知県や名古屋市で生徒の指導に携わっている先生方、校長先生始め、平針中学校の職員、保護者のみなさまのおかげであると深く感謝しております。

また、チームスタッフの部長として生徒と関わっていただいた鳥本岳志先生、トレーナーの加藤丈晴さんにはチームのためにご協力いただいたことで生徒に大きな力を与えていただくことになったことは言うまでもありません。

このチームは、昨夏の東海大会で初戦敗退したことで全中出場を逃したことをバネに新チームがスタートしました。昨年のチームからの経験者はおりましたが、ケガをかかえていた選手がいたこと、チームとしての戦術が徹底されていなかったことなど問題をかかえており不安が強くありました。小学校時代から全国大会で入賞経験がありましたが、中学校で大きな大会での経験は不足しており、名古屋市、愛知県の大会で順調に勝ち進んでもチーム内にもう一つ緊張感を感じ取ることができず、モチベーションがなかなか上がらないまま練習を重ねていたように思います。今、振り返ってみると転機は、昨年度より名古屋市開催となったJOCジュニアオリ

ンピックカップの試合を目前で観戦させていただいたことによって、全国大会の雰囲気、選手の運動能力や集中力の高さ、攻防の激しさ、チーム戦術の浸透度など、全国大会で自分たちがどれだけ通用するのかを考えさせられるきっかけになったのはまちがいありませんでした。

本大会の前には、県内の高校生に数多く胸を貸していただき、練習や試合を積み重ねることでチーム内の慢心を排除することにつながっていきました。本大会は、1試合でも多く試合をさせてやりたいという思いの中で大会に参加させていただきました。試合の序盤は、動きの硬さが見られましたが、試合が進むにつれ、ペースをつかみ運良く勝ち上がることができました。迎えた準決勝の光陽中との対戦は、両チームともにミスが目立ち本来の力を発揮することができず、苦しい試合ではありました。しかし、チームの長所である速攻からの得点をきっかけに、前半からのリードを何とか守りきって勝利をつかむことができました。決勝はその勢いで試合のペースをつかみ、リードを保つことができました。終了のホイッスルが鳴った瞬間、すばらしい生徒達から感動をいただいたことは私の貴重な財産となりました。

私の指導者としての原点は、横井保信先生（元中京高校）と小辻壽雄先生（元東港中、汐路中学校）の二人の恩師の指導にあります。この二人の指導者に一歩でも近づくことを目標に夏の大会に向けて生徒達とともに歩んでいきたいと思います。先生方、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、今大会の運営に携わられた富山県、氷見市の関係者のみなさま、陰で大会を支えていただいた中学生のみなさん、本当にありがとうございました。

名古屋市立平針中学校主将　藤原真由子

私達は今回の春の全国中学生ハンドボール選手権大会で優勝できて感激しています。私達のチームの多くは、平針南小でハンドボールをやっていた経験者です。小学生の時に氷見で開催された「ちびっこハンドボールフェスティバル2007」という大会に出場して春中の存在を知ったときから、2年後には大会に出場して絶対に優勝しようと決め、中学校入学以来、日々努力を重ねてきました。

入学以来ご指導いただいた高橋勝輝先生の縦に攻めるハンドボールに、熊谷先生の斜めに合わせていくという形のハンドボールが加わり、すごく戸惑いを感じていました。一生懸命練習していても、熊谷先生には怒鳴られるばかりで、もうやめたいと思うときが何度もありました。それでも、諦めずにチームの仲間と一緒に頑張ってきたからこそ、優勝を勝ちとることができたのだと思います。

これからも、私達のプレー‘堅守速攻’に磨きをかけ、今まで以上に気持ちを一つにして、平針中のモットーである‘負けないハンドボール’を目指して頑張ります。

こうして優勝できたのも、ご指導いただいた先生方、常日ごろから応援してくれている家族、私達のために何度も全力で練習相手になって下さった、名経大市邨高校、桜花学園高校、星城高校、愛知商業高校の高校生の皆さんのおかげです。本当に感謝しています。ありがとうございました。

今までの経験で得た財産を土台にして、平針中学校女子ハンドボールは春夏連覇に向けて走り続けていきたいと思います。



戦　評

【男子】

▼準決勝

日吉（長崎） 27（12 − 16、15 − 9）25 岩国（山口）

スローオフ直後、日吉２番峰、６番藤川、８番山口の４連続得点により日吉ペースで試合が始まった。対する岩国も３番木下の連続得点で少しずつリズムを取り戻すが、シュートミスやパスミスからの逆速攻により徐々に点差が広がっていった。

中盤、交替選手のいないチーム状況での連戦による疲れからか日吉にミスが出始め、岩国は６番長和のポストシュート、８番田村の速攻、３番木下のミドルシュートなど５連続得点を挙げるなど、12 対 10 と逆転に成功した。その後も連続得点を重ねた岩国が試合の流れを一気に引き寄せ、前半は 16 対 12 で折り返した。

後半スタート直後から、日吉はスピードを活かした攻撃を続け、３連続得点で 16 対 15 と追い上げた。岩国は、２番峰に対してマンツーマン・ディフェンスを仕掛け、日吉の攻撃リズムを崩しにかかった。その後、どちらのチームも連続得点を挙げるなど、試合の主導権が大きく行き来する気の抜けないゲーム展開となった。

終盤、スピードを活かした攻撃を仕掛け続けた日吉が、岩国のミスを誘って得点に結びつけ、27 対 25 で逃げ切った。

大体大附属（大阪） 36（13 − 12、23 − 16）28 ヴァルト岐阜（岐阜）

序盤に硬さの見えるヴァルト岐阜に対して、大体大附属はフットワークを生かした堅いディフェンスで相手のミスを誘い、速攻による得点を重ねて流れを引き寄せた。一時は点差が５点まで開いたが、ヴァルト岐阜は 12 番篠田を中心によく守り、５番石原のミドルシュートなどでじりじりと点差を詰め、前半 18 分過ぎに同点とし、試合をふりだしに戻す。その後は両チームのＧＫの好セーブもあり、お互いに決めてのないまま大体大附属の１点リードで前半を折り返した。

後半に入ると大体大附属はディフェンスが機能し始め、２番石田、６番北山の速攻で一気にたたみかけ、流れを引き寄せる。点差が９点にまで広がった 18 分過ぎにヴァルト岐阜はマンツーマン・ディフェンスに切り替え、大体大附属のミスを誘おうとしたが、逆に大体大附属は広くなったヴァルト岐阜ディフェンスのスペースを落ち着いて攻め、着実に点数を重ねていった。最後まで足を止めることなく攻守に徹した大体大附属が決勝へと駒を進めた。

▼決勝

大体大附属（大阪） 40（18 − 12、22 − 17）29 日吉（長崎）

日吉８番山口のスピードあるカットインプレーの得点から始まった男子決勝戦。対する大体大附属も２番石田、３番瀬利の力強いロングシュートで得点する。さらに、３−３ディフェンスから相手のミスを誘い速攻を仕掛けるなど、大体大附属は多彩なプレーで８分までには８対２とリードを広げた。ここで日吉はタイムアウトを要求。冷静さを取り戻した日吉も２番峰のミドルシュートなどで得点を重ね追撃、18 対 12 として大体大附属リードで前半を折り返した。



後半も大体大附属は、２番石田、３番瀬利が連続で得点を上げ得点を重ねた。食い下がる日吉も２番峰のロングシュ

ート、8番山口のカットインで反撃するものの、16 分過ぎ、ここまで着実に得点を重ねてきた山口が3回目の退場となり失格となった。日吉は、前日の試合で負傷した選手をコートに送り出す状況にあっても、あきらめずに最後まで戦い抜いたが、40 対 29 で大体大附属が初優勝の栄冠を手にした。

【女子】

▼準決勝

西中原（神奈川） 19（10 − 6、9 − 10）16 魚住東（兵庫）

決勝進出をかけた一戦。両チームともに大一番に対する緊張からか攻撃のミスが多く、3対3と 10 分過ぎまではロースコアの接戦が展開された。その後、西中原3番原田による2連続得点で試合が動き始め、前半終了時点では、10 対6と西中原が抜けだし、4点リードで折り返した。

後半開始まもなく、魚住東は3番奥村、6番中村の連続得点で追い上げる。さらにポストを起点として追撃を図るが、うまくつながらず、逆に西中原の2連続得点を許してしまう。後半 16 分過ぎからは、西中原4番平野の3連続速攻でさらに点差が広がった。終盤 20 分過ぎに退場者を出したものの、その時間帯をしのぎきった西中原が3点差で逃げ切り、決勝進出を果たした。

平針（愛知） 21（12 − 7、9 − 11）18 光陽（福井）

試合開始早々、4番岩永のロングシュートが決まり、動きで勝負する光陽ペースで試合が始まった。それに対して大型プレーヤーを揃える平針は、6 − 0ディフェンスで光陽のカットインを許さず、堅い守りからの速攻を中心に得点を重ねた。両チームの鋭いシュートに対して光陽1番山本、平針1番新保の両 GK の好セーブが光り、1点を競り合う一進一退の好ゲームとなった。しかし、前半 17 分からミスが出始めた光陽に対して、そのチャンスをすかさず得点につなげた平針は、6番坂口、2番藤原、5番杉浦の4連続得点をきっかけにリズムをつかみ、12 対7と平針リードで前半を折り返した。

後半、光陽は3番木村、4番岩永のロングシュートを中心



に、得点するものの、平針のスペースを与えない6 − 0ディフェンスを崩すことができなかった。対して、平針はディフェンスからの速攻を確実に得点し点差を広げた。終盤、必死に追い上げる光陽を辛くも振り切った平針に軍配が上がったが、体格差を感じさせない、それぞれの良さが発揮された素晴らしいゲームであった。

▼決勝

平針（愛知） 33（16 − 8、17 − 12）20 西中原（神奈川）

平針のスローオフで試合開始。前半序盤、平針は強固なディフェンスからの速攻で勢いに乗り、8番センター田中を中心とした速いパス回しで西中原ディフェンスを翻弄し、5番杉浦がサイドシュートを確実に決めることで着実に得点を重ねていった。西中原も、ダブルポストやフォーメーション・プレーなどを駆使した攻撃で食い下がろうとしたが、平針ディフェンスを崩すことは難しく、その後も速攻などで得点を重ねた平針が8点差で前半を折り返した。

後半立ち上がり、平針は5番杉浦の速攻や8番田中のロングシュートで5連続得点し、点差を一気に広げた。一方、西中原も2番水村のロングシュート、4番平野のサイドシュートなどで必死に追いつこうとしたが、その差を縮めることはできなかった。結局、15 得点をあげた5番杉浦の大活躍もあり、平針が 33 対 20 で初優勝の栄冠を手にした

第7回東アジアハンドボールクラブ選手権







総　評

日本ハンドボール協会事務局次長　**茂木　均**

東アジア各国の友好とハンドボール競技のレベルアップを目的に、韓国・中国・日本の３ヵ国でスタートした東アジアハンドボールクラブ選手権は、本年第７回目を迎え、４月７日～９日の間、韓国仁川において開催された。

同選手権には、開催国は男女共に２チーム、他の２ヵ国は男女１チームづつが参加している。今回は予定されていた中国女子チームの参加が、大会の１週間前に急遽キャンセルされる事態が発生し、韓国ハンドボール連盟より日本協会に対し、異例の女子１チーム追加派遣の要請があった。急ぎ第34回日本リーグ２位の北國銀行に参加を依頼したところ、突然の申し入れにも拘わらず快く引き受けてもらった。

今回の女子については日韓２チームづつが参加する、文字通り日韓の一騎打ちとなった。

大会のグレードアップ

今大会にIHFの競技規則審判委員会（PRC）委員のラモン・ガレゴ氏（スペイン）がテクニカルデレゲートとして、またデンマークの国際レフェリーペアー、オルセン、ペデルセン両氏が大会に加わった。オリンピックや世界選手権を数多く経験している役員、レフェリーが加わったことにより、東アジアの大会から世界基準の大会へと一気に向上して行くようであった。

これも韓国が今年７月の女子ジュニア世界選手権を意識しての、大会運営だったのかも知れない。

試合結果について

【男子】　１位･斗山（韓国）　２位･仁川（韓国）
　　　　３位･大同特殊鋼（日本）　４位･江蘇省（中国）

【女子】　１位･碧山建設（韓国）　２位･三陟市庁（韓国）
　　　　３位･北國銀行（日本）　４位･ソニー（日本）

残念ながら日本勢３チームとも韓国勢に全敗の結果となってしまった。

大会のベスト７に日本チームからは、末松誠選手（大同）、上町史織選手(北國)、黒木聡子(ソニー)の３選手が選ばれた。





男子のベスト7（写真上）、男女MVPと市原則之副会長（写真左）

試合結果

【女子】

碧山建設(韓国)	30 (18-10, 12-12) 22	北國銀行(日本)
ソニー(日本)	25 (10-16, 15-15) 31	三陟市庁(韓国)
ソニー(日本)	28 (10-15, 18-18) 33	北國銀行(日本)
碧山建設(韓国)	27 (17- 9, 10-14) 23	三陟市庁(韓国)
三陟市庁(韓国)	25 (11-10, 14-13) 23	北國銀行(日本)
碧山建設(韓国)	36 (20- 8, 16-19) 27	ソニー(日本)

【男子】

江蘇省(中国)	21 (7-21, 14-14) 35	仁川(韓国)
斗山(韓国)	36 (19-17, 17-13) 30	大同特殊鋼(日本)
大同特殊鋼(日本)	34 (18-13, 16-14) 27	江蘇省(中国)
仁川(韓国)	19 (7-12, 12-12) 24	斗山(韓国)
仁川(韓国)	28 (14-11, 14-13) 24	大同特殊鋼(日本)
斗山(韓国)	28 (13-12, 15-11) 23	江蘇省(中国)

集客への意識

今回の試合日程をみると3日間とも平日（水木金）のお昼前後から第一試合を開始し、夜7時前には全部の試合が終了、一般客が観戦に来るには、難しい時間のセッティングとなっていた。韓国連盟の運営は韓国スーパーリーグ等の例をみても、余り集客への意識はないようである。もっぱらテレビ放映やネット中継に重点を置いている。また短期集中型で実施している。集客という意識が薄い点では中国も同様である。

日本と韓国の差

優勝した韓国女子の碧山建設は登録選手12名、男子の斗山は13名で戦っていた。両チーム共に少人数のハンディなど全く感じさせない戦いぶりであった。

多くの韓国代表が在籍し、少数精鋭で3日間戦い抜き、好成績を残す両チームを見ていると、結果的に韓国代表チームの強化に大いにつながっているのではないかと思う。

女子について日韓の差は、まず体格差、次に個人で打開する優れた能力が挙げられる。日本女子はスタートから苦戦、時間の経過と共に更に苦しい展開を余儀なくされていた。

男子については、全体的な体格差は余り感じなかったが、ユン・キョンシンを始めとする突出した能力を持った選手が、特に優勝した斗山に見られた。ユンは昨年4月の中国蘇州での大会よりも遥かにシェイプアップ、体のキレを感じた。それでも大同は、韓国勢2チームとの試合では勝利することが出来なかったが、手に汗を握る試合展開であった。

オリンピック予選を勝ち進む為の最大のライバル韓国、この大会での結果をどう捉えて、来年に迫ったアジア予選に対応して行くのか。昨年からスタートした韓国スーパーリーグは、韓国選手強化に大いに役立っているようである。

監督・選手の声

《男　子》

東アジアクラブ選手権を終えて

大同特殊鋼ハンドボール部監督　清水博之

3月の日本リーグプレーオフV5を達成し、4月6日から韓国仁川で開催された東アジアハンドボール選手権に出場してきました。今大会で5年連続出場しておりますが、未だ優勝経験はなくまた韓国の壁を崩すことができておらず、例年同様今年こそはという気持ちで選手一同戦って参りました。

初戦の斗山（韓国1位）戦では、相手のプレスDFを上手く崩し得点を重ね、5－1DFからFBに繋げ好スタートを切ったものの、途中出場のユン・キョンシン選手に3連打を浴び、6点あったリードもすぐさま追いつかれ2点ビハインドで折り返しました。後半スタートで1点差まで追いついたものの、ノーマークシュートミスや相手の2：2ピボットにやられ、またしても敗れてしまいました。

第二戦のJiangsu（中国）戦は、スタートからDFが機能し相手のミスをFBへ繋げ、終始リードして試合を進めることができました。途中、退場や大型ピボットに苦しめられる場面もありましたが、ベンチ入り選手全員の活躍で勝利することができました。

最終戦の仁川（韓国2位）戦は、相手のプレスDFに上手くはまってしまいドリブルカットやパスミスで、苦しいスタートとなりました。なんとか離されずについていきましたが、

勝負どころでの決定力が響き韓国チームに勝利することなく大会を終えることとなりました。

大会全体を通して感じたことは、韓国との差はまだまだあるということです。それはベンチ含む14名の個人技（基本技術）、パス、フェイント、シュートがしっかりとできる。これに尽きると思います。戦術や組織プレー、試合構想は逆に上回っていると感じましたが、パスミス1本、シュートミス1本これが最後の勝敗を分けることをまたしても痛感しました。またコートに立っている選手それぞれが、勝つための勝負どころを理解しており、その場面での自分の役割をきっちりと果たせるのも韓国の強さであります。1：1の個人技レベルで韓国を超えない限り、東アジアのチャンピオンにはなれないと考えます。

今回で5大会連続、韓国チームに敗れてしまいましたが、課題も目標も再確認できました。現実をしっかりと見つめ直し10年度シーズン再出発いたします。日本チームの代表として優勝することはできませんでしたが、この経験を次に繋げ世界に通用するハンドボールチームを創っていきます。

最後になりますが、大会を開催するにあたりご尽力いただいた協会関係者､会場まで足を運んでご声援くださった皆様、日本から応援下さったハンドボールファンの皆様、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

東アジアクラブ選手権を終えて

大同特殊鋼ハンドボール部　**末松　誠**

4月7日～10日に韓国の仁川（インチョン）で東アジアクラブ選手権が開催されました。

東アジア選手権の出場チームは、開催国の韓国からDoosan（韓国1位)、Incheon（韓国2位）の2チーム、中国からJiangsu（中国1位)、そして日本から大同フェニックスの4チームでした。

私達フェニックスは第1試合目から前回大会優勝のDoosan（韓国）との対戦となり、昨年の東アジア選手権でのリベンジを果たすべく、チーム全員が気持ちをひとつにして試合に臨みました。

立ち上がり大同のDFが機能し、得意の速攻でリードを奪うことができましたが、試合の中盤からDoosanのエースを抑えることができなく、前半は2点リードされて折り返しました。

後半の立上りから大同も日本の代表チームという意地を見せて1点差まで詰め寄りましたが、勝負所で連続退場をしてしまい6点差で敗戦しました。去年のリベンジを果たそうとチーム全員が意気込んで臨んだ試合であっただけにとても悔しい敗戦となりました。

気持ちを切り替えて臨んだ第2試合目は、昨年も東アジア選手権で対戦したJiangsu（中国代表）でした。立ち上がりからアグレッシブなDFで相手にプレッシャーをかけ、速攻で大同のペースに持っていき5点リードで前半を折り返し、後半はセットOFでも効率良く得点できました。この試合はチーム全員が出場し、7点差で勝利することができ、次のIncheon（韓国）戦に繋がる試合ができました。

最終戦は韓国2位のIncheon（韓国）との対戦でした。

初戦でDoosan（韓国）に敗戦しているだけに、日本の代表として絶対に負けられない試合でしたが、前半は攻撃で多くのチャンスを作るものシュートミスやイージーミスを発生させてしまい3点リードで前半を折り返しました。日本の代表チームというプライドを持ち、必ず勝利しなければならないと挑んだ後半は立ち上がりに相手のミスを速攻に繋げて1点差まで詰め寄りましたが、逆にシュートミスから相手に得点を許し、最後まで追いつくことができずに4点差での敗戦となりました。

今大会、日本の代表チームとして大会に出場しましたが、韓国代表2チームに敗戦し､自分達と韓国人とのレベルの差、また今の私達に足りないものを痛感しました。この反省を次に生かしながら、今まで以上の努力と、日本人としてのプライドを持って日々の練習に取組み、レベルアップしなければいけません。

来年の東アジアクラブ選手権にも日本の代表として出場し、今年のリベンジが出来るようにチーム全員で切磋琢磨していきます。そして、自分達の弱点を克服し必ずロンドンオリンピックの舞台に立てるように頑張ります。

またこの場をお借りして大同を応援して下さった皆様にお

礼を申し上げたいと思います。今年度も大同らしいスピードハンドボールをみなさんにお見せできるように頑張りますので、応援よろしくお願いします。

《女　子》

東アジアクラブ選手権を終えて

ソニーセミコンダクタ九州ヘッドコーチ　郭 惠靜

4月7日から3日間にわたり韓国の仁川で開催された東アジアクラブ選手権に、日本代表として出場させていただきました。残念ながら中国女子の代表は参加できないということで、女子は日本と韓国だけの出場となりましたが、海外での国際試合という私たちのチームにとって大変貴重な経験をさせていただきました。この大会に参加するにあたり、多くの方々にご尽力いただきまして、心から感謝しております。

大会の準備にあたりましては、3月のプレーオフが終わったあと、選手の引退や怪我人などの影響で満足な状態で準備することができず、不安を抱えながらの大会でしたが、来シーズンのチームの成長や、若手選手の育成に繋がる良い機会となりました。特に韓国の碧山建設や三陟市庁との試合では、韓国の選手の個人技術・フィジカルの強さを選手たちが直接肌で感じたことと思います。これを機に選手たちが世界のレベルを意識し、ナショナル活動などで活躍できるよう、チームとしてのレベルも更に上を目指し頑張っていかなければと身を引き締めました。

チームの結果としては、1勝もあげることが出来ず、力の差を感じさせられる結果となりましたが、今後の私たちの目標は、まず安定した力を発揮できるようになることだと思っております。その一歩として今回の大会は、自分たちの課題とするところを目の当たりにすることができ、新たなスタートを後押ししてくれた大会となりました。今後はその課題の克服し、来シーズンのスタートへ向けて、またチーム一丸となって頑張っていきたいと思います。引き続き皆様方のご支援ご声援の程、宜しくお願い申し上げます。

東アジアクラブ選手権を終えて

ソニーセミコンダクタ九州　飛田季実子

4月7日～9日に韓国（仁川）で、東アジアクラブ選手権が開催されました。

日本リーグを優勝し日本代表として今大会に挑みました。

代表として恥ずかしくない試合をする事、アジアナンバーワンのチームとの対戦にどれだけ自分達の力が通用するかを試すという事を頭に置き試合に臨みました。

結果は、3戦3敗で4位という結果に終わりました。

結果としては、日本リーグ覇者としては納得いく試合ではありませんでしたが、私達の持っている力を精一杯出しきりました。

今シーズンを通しても、今大会でも "流れを呼び込む場面でのミスが試合を大きく左右する" というのを実感しました。

また韓国チームのスピード・パワーを肌で感じる事が出来ました。チーム力・個人の力というのを目のあたりにし、凄く刺激を受けました。

普段、国内選手としか戦えないので貴重な経験をさせていただきました。私達にとって、学び多き大会になりました。

国内では勿論、国外でも『どうすれば勝てるのか』という事をもっと個々が考え、アイディアを出し、コミュニケーションをとってチーム力を上げて国内・国外でも勝てるチームになっていきたいと思いました。

また、この大会に来シーズンも出場できるように新たな気持ちで頑張っていきたいと心から思いました。

日頃から私達ハンドボール選手を応援してくださる方々に心から感謝し、皆様の期待に応えられるように日々努力し、強いソニーセミコンダクタ九州になっていきます。

これからも温かい応援をよろしくお願いいたします。

東アジアクラブ選手権大会に出場して

北國銀行ハンドボール部監督　荷川取義浩

第34回日本リーグプレーオフ決勝で敗れ、今大会の出場

権を失いましたが、中国チームのキャンセルにより、急遽出場要請を受けたのが、大会10日前。

選手達のコンディション・モチベーション等を考慮すると不安要素が多々ありましたが、会社のご配慮を頂き、出場を決意したのが、大会1週間前。出場するからには、日本代表として精一杯のプレーをして、成績を残せるよう準備をして、大会に臨みました。

初戦は、韓国1位の碧山建設。前半は懸念していた部分が出てミスを連発し、速攻に運ばれ、10対18とリードを許す。後半に入り、徐々に北國らしいプレーが出て、点差を詰めるも追い付けず、22対30で敗れる。

2戦目は、リーグで敗れたソニーセミコンダクタ九州。立上がりは、硬さも見られたが、徐々にペースを掴み、15対10で折り返す。後半も勢いが増し、15分には24対12とリードを広げる。中盤以降は、若手も経験させる事が出来ましたが、追撃を許して結局、33対28で終了し、1勝1敗となり2位を賭け、最終戦を戦う。

最終戦は、韓国2位の三陟市庁。碧山建設よりも大型チームで、平均身長では自チームより9㎝以上高いチームでした。

両チームとも持ち味を発揮して、序盤から一進一退が続く中、10対11の1点リードされて、前半を終了。後半に入り、離されそうになるが、持ち前の粘りを発揮して、終盤まで喰らいつく。しかし、逆転するに至らず、結局23対25の2点差で敗れ、1勝2敗の3位で終了。

日本代表で出場させて頂きながら、不本意な成績で申し訳なく思います。この経験を来シーズンに活かし、チーム力向上に努めたいと思います。

最後になりましたが、出場にするにあたり、ご尽力を頂きました東アジアクラブ選手権事務局並びに日本ハンドボールリーグ関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

東アジアクラブ選手権に参加して

北國銀行主将　**田代ひろみ**

本来であれば、JHL優勝チーム男女各1チームのみ出場する東アジアクラブ選手権に、中国チームの不参加の為、急遽参加する事になり、大変貴重な経験をさせて頂く事になりました。

韓国1位（碧山建設）、2位（三陟市庁）、ソニーセミコンダクタ九州と試合をし、1勝2敗の3位と結果は決して良いものではありませんでした。

しかし、チームとしては、DFが機能し、持ち味であるDFから速攻で得点するケースがあり、DF面で手応えを感じた事が収穫でした。勿論、全ての時間帯でDFが機能したわけではなく、初戦の碧山建設の前半のように全く機能せず、8点リードを許し、敗れた試合もありました。

また、最終戦の三陟市庁戦では、1試合通してDFが機能し、誘い込んだり、ロングシュートにはCPとGKの連携で守り、セットでの失点を抑える事が出来ました。

課題については、OFでのイージーミスの多さを感じました。出場した他の3チームに比べ、パス・キャッチ、ノーマークシュートミスが多く、失点の大半は、自分達のミスからの逆速攻です。

碧山建設の前半もミスが続き、そのミスからの逆速攻で失点を許し、ペースを掴む事が出来ませんでした。

終始、互角に戦えた三陟市庁との試合も大事な局面でのミスからの逆速攻の失点が響き、勝ちに繋げる事が出来なかったと思います。そんな時こそ、GKが体を張ったキーピングで失点を阻止し、チームに勢いとリズムを与えられるようにしなければと思いました。

実際、代表チームでも自分達のミスからの逆速攻での失点が多いので、自チーム同様にGKが踏ん張りを見せなければ、負け試合になると思います。

代表選手が所属チームでイージーミスを減らし、シュート本数を増やす事を徹底して、やっていかなければいけないと思います。そして、ミスが出た時には、お互いがカバーして、勝ちに繋げる様にする事が大切です。

今回経験させて頂いた事が無駄にならないように、所属チームにおいても代表チームにおいても自覚と責任を持って、一生懸命に取り組んでいきたいと思います。

最後に今大会の出場に際しまして、お世話になりました東アジアクラブ選手権事務局並びに日本ハンドボールリーグ事務局の皆様に心より感謝申し上げます。

シリーズ「ロンドンに向けて」その１

ジャパンカップと併せ、〝ハンドボールファン交流会〟が６月５日（土）開催され、ハンドボール・オリンピアン（ミュンヘン１９７２、モントリオール１９７６、モスクワ１９８０、ロサンゼルス１９８４、ソウル１９８８）と現役日本代表が参加しました。交流会に参加の４名のオリンピアンに、当時の様子と「ロンドンに向けて」激励を戴きました。



中井 武三さん

ミュンヘン、モントリオール大会

日の丸を掲げたチームが一クラブチームに負けるのは残念だ。「国を代表するチームがおいそれと負けてはならない」と、当時は誰もが思っていた。今日の試合を観た限り、現在の日本代表には闘争心が多少欠けているように感じた。私が初めて代表の遠征に参加した時はチーム最年少だったが、先輩たちにも絶対に負けないという思いでやっていた。

また、今の代表には試合におけるリーダーがいないと思う。つまり試合中に選手同士で指示を出し合うようなシーンが見られない。個々としては力があるのだろうが、組織としてはどうか。ヨーロッパのチームには攻守において司令塔が必ず存在する。試合になれば戦うのは監督ではなくコート上の選手たちなのだから、自分たちでゲームを組み立てていってほしい。

オリンピックというものは本当に良いものだった。行くことができれば素晴らしい財産になる。血へどを吐くほど練習したからといって、オリンピックに出られるとは限らない。しかし、そこまでせずに行けるものでもない。日本代表にはぜひ頑張ってもらいたい。



菊池 悟さん

モントリオール大会

早大在学中に全日本に選ばれた自分には、二つの大きな目標があった。一つは、「勝つ」ということ。もう一つは、「ポジションを獲る」ということ。当時の指導者には、「日の丸を背負う以上、国際試合は戦争と同じだ」とよく教えられた。ナショナルチームとしてはそういう一心になることが最も大事だと。

早大にいた頃は、勝ち続ける中で「ただ勝てばいいというものではない」という指導を受けていた。勝ったからといって、内容が伴わなければ意味がない。また、勝ち負けは時の運だから、勝ちにいっても勝てない試合というものはある。しかし負け方というものもある。そういった薫陶を受けてきたことで、コートの立った時の精神力、必勝の信念が培われたのだと思う。



山本 伸二さん

モスクワ、ロサンゼルス大会

自分たちが代表だったころは、短期集中型の極めてハードなチーム作りを行っていた。モスクワのときは良いチームになったが、ボイコットのため大会に参加できず、気持ちが切れそうになった。それを潮に引退される先輩もいて、当時のモヤモヤとした感情はよく覚えている。その反面、ロスのチームには「このままでは終われない」という気持ちがあった。モスクワの選手の半分くらいは残っていたのは、完全燃焼する場所が欲しかったからだと思う。

女子もそうだが、今の日本代表には後半の勝負どころで気持ちが切れることがあると感じた。そこをしのげれば良いのだが、もっと一人ひとりの意欲が出てもいいのでは。「ジャパンカップ」と銘打たれた大会を日本で開催しているのだから、勝利への執念を見せてほしい。技術的には優れていると思うから、あとは勝負所での強い精神力をもってほしい。



井藤 英忠さん

モスクワ、ロサンゼルス、ソウル大会

ロサンゼルス大会の頃になると韓国が力をつけてきて、韓国を倒さないとアジアを勝ち抜けないという状況になっていた。モスクワの時は世界との戦いを念頭に海外遠征を多くこなしていたが、ロスの時からはアジア対策にも力を入れていた。

今日の日本代表の試合を観て、メンバーチェンジが非常に多かったためかチームとしてのスタイル・約束事が見えにくいという印象を受けた。また、ロシア（ネバ）からは勝利への執念が伝わってきた一方で、日本はチームとして勝ち負けにこだわっていなかったように感じる。強化の一環という位置づけの試合だったとは思うが、「この一戦に勝つ。負けるわけにはいかない」という緊張感をもってもらいたい。

審判部報告

2010年 競技規則書における変更の概要

既に周知の通り、ＩＨＦでは７月１日より競技規則の改訂を行います。日本国内においては、その一部を先行実施していますが、７月１日の改訂にあたりその概要を簡単にまとめお知らせいたします。

詳細については、７月１日発行の　新競技規則書を参照してください。

（1）８条：16条

①構成を変更

	違反	スポーツマンシップに反する行為
通常の段階罰	８の３	８の７
直接の２分間退場	８の４	８の８
失格（報告書なし）	８の５	８の９
失格（報告書あり）	８の６	８の 10

段階罰の判定基準は…

a）位置	b）身体の部位	c）激しさ	d）影響
・正面から	・胴体	・身体接触の強度	・身体・ボールコントロールへの影響
・側方から	・シュートしている腕	・相手の動きの速度	・移動に対する妨害の程度
・後方から	・脚		・プレー続行の阻止
	・頭部・喉・首		

上記の基準を組み合わせて判定する。

②「追放」がなくなる→８の 10「極めてスポーツマンシップに反する行為」に含む。

③既報の「ブロックプレー」の定義、ゴールキーパーの待ち伏せ行為、７ｍスロー時・フリースローを直接シュートする際の危険行為についての内容が追加された。

（2）競技規則解釈４　パッシブプレー

内容の変更はなし。「予告合図のあと」という項目が追加され、事例が示されている。

（3）競技規則解釈７
タイムキーパーやＴＤによる競技の中断

内容の大きな変更はなし。事例を整理し直した。

（4）４条

①キャプテンという用語が復活した。

②ＩＨＦでは背番号を【１～99】と規定（国内では、大会規定に委ねることとします）。

③身に着けてよいものに「ヘッドスカーフ」「キャプテンマーク」を追加した。

（5）変更日

平成 22 年７月１日とした（従来は８月１日に変更が行われていた）。

（6）５の 10

ゴールキーパーの「許されない行為」を修正。足で触れてはいけないものから「止まっているボール」が削除された。

（7）６の２

防御側チームのコートプレーヤーが「ゴールエリアに侵入する」とは、ゴールラインに触れることではなく、「明らかにゴールエリア内に踏み込むこと」を意味すると記載された。

（8）６の５

ゴールエリア上の空間にあるボールの扱い方が規定されていなかったが、「競技規則７：１、７：８をふまえて」扱うよう記載された。

（9）９の１

ボールがゴールラインを完全に通過する前に笛がなってしまい「得点が認められないケース」に、「ＴＤからの笛」が追加された。

（10）17 の９

レフェリーの交代や、計時に疑いがある場合の処理について、柔軟性を持たせた。

(11) 17の14

レフェリーの「通信機器の使用」を認めた。

(12) 競技規則解釈6

明らかな得点のチャンスを整理し直した。待ち伏せのような状態で「ゴールキーパーがゴールエリアを離れている」場合は、「他の防御側プレーヤーの位置は関係ない」と明記された。

(13) 交代地域規定

①「コーチングゾーン」を新設する。コーチングゾーンは、センターラインから3.5 m（チームベンチの始端）の位置からベンチの終端までとし、それよりもオフィシャル席に近づけるのは（a）チームタイムアウトを請求するとき〈チーム役員のうちの1人〉（b）オフィシャル席と話をする特別な場合〈チーム責任者のみ〉だけである。

　グリーンカードを出すためにオフィシャル席に近づき、タイミングを待つことは許されない。

②チーム役員の服装は、「相手チームのコートプレーヤーと区別しにくい色」は許されない。

(14) 7mスローコンテストの実施方法

国内の競技規則書では従来「7mスローコンテストは3名ずつで」と明記していたが、国際ルールに併せて「5名」と変更した。ただし、運用については従来どおり大会によって規定するものとする。

医事委員会だより

平成22年度第1回加盟団体連絡会議兼ドーピング防止研修会参加報告

熊本赤十字病院 整形外科　佐久間 克彦

日　時：平成22年4月22日（木）18時～21時　　会　場：味の素ナショナルトレーニングセンター　大研修室
参加者：佐久間克彦、坂本静男、原田悟

今回のトピックスは、今年度から財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）認定「アンチ・ドーピングマスター」の設置が行われたことです。その役割は、加盟団体における最新のドーピング防止活動に関する教育及び研修の推進を行うことです。

そのため、今回の会議が初回の養成研修会を兼ねる事となり、当協会においては、参加者3名の何れかが審査後認定を受ける予定です。

ドーピングに関わる3つの役職が存在する事になりました、

1）ドーピング・コントロール・オフィサー（DCO）／リードDCO：ドーピング検査の実務のスペシャリスト
2）NFR（National Federation Representative）：ドーピング検査に関する加盟団体側の競技会統括者
3）アンチ・ドーピングマスター：加盟団体におけるドーピング防止活動に関する教育及び研修の推進。

実務上に混乱を招かない様に、アンチ・ドーピング委員長　坂本静男先生の判断にて当協会での活動が行われます。

2010年度の禁止表国際基準および治療目的使用に係る除外措置（TUE）の改定における一番の注意点は、喘息の治療薬であるベーター2作用薬に関する事です。サルブタモールとサルメテロールの使用においてはTUE不要であるが、ドーピング検査時には使用の申告は必要です。またサルブタモール最大使用量は1600 μg／日です。その他の薬物使用は従来通りTUEは必要です。

また、選手／競技関係者はどなたでもJADAのホームページの“REAL WINNER”からeラーニングでドーピング問題を学習できる様になりました。是非1度アクセスして下さい。http://www.anti-doping.or.jp

～今年の宿題は勿論…～

企画･広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

アジア選手権（レバノン）で死闘の末に３位を確保、３大会、６年ぶり世界選手権の出場権を獲得した男子日本代表。その後、強化合宿をこなし、ジャパンカップに臨み、11月にはアジア大会（中国・広州）、さらに世界選手権、オリンピック予選とロンドン・オリンピックへの道をたどる。

オリンピック出場にはこの欄で何度も書いてきたが、日本のマスメディアに目を向けさせるには「出場」が欠かせない。北京オリンピック再予選の際、空前の報道でハンドボール界や世間をアッと言わせた再来を期待するのは、私だけではあるまい。

積極的にメディア対策を練ると同時に、やはり「結果」が重要な要素を占める。

強化に関しては酒巻監督に委ねるしかないが“熱い”指揮官だけに“熱い感動”をもたらしてもらえるものと確信している。

何はさておき、ライバルは韓国であることに間違いはない。打倒韓国にどのように立ち向かうかであろう。アジア大会で代表ユニホームを脱ぐという日本リーグ５連覇した大同特殊鋼の大黒柱・白元喆や左腕エース尹京信のほか、後継者や若手も順調に力をつけている。彼らに存在感を見せつけられては勝ち目は当然ながらあるはずはない。

日本の持ち味の一つである機動力を生かした攻防にいっそう磨きをかけることも必要であろう。さらにどこまでもポジティブにチャレンジする気持ちを持続することも大切だろう。韓国が日本戦にひときわ燃えるように、日本としても打倒韓国に目の色を変えて立ち向かうことである。

とにかく、アジアのナンバーワンにつくことが、オリンピック出場につながるのは、だれも否定は出来ないはずである。

いつまでも韓国に屈していることは情けない限りだ。ただ、少数精鋭で強化できる韓国と比べると、確かに日本の強化にはいろいろと難関があることも理解は出来る。しかし「だから勝てない」では、勝負の世界に生きるものとしては、あまりにも寂しいというものである。

他の競技を見回すと、多くの障害を乗り越えて世界の舞台で戦っているものもある。ファンの大きな声援の場を演出することも必要だろうし、メディアの“利用”も一つの手段だろう。

考えられるすべての方法、戦略などを駆使して、悲願となったオリンピックの舞台へ突き進むことを期待したい。「成せばなる」－長い間解けなかった“宿題”を今度こそ、なんとしてもこなしてもらいたいものである。

JADMA®
社団法人日本通信販売協会会員



6カ月間洗浄がいらない PREMIUM ドクター・水素水®

多くのアスリートや
スポーツ愛好家の
方々にも愛飲されて
います。



健康は毎日の飲料水から

**水道水から作れるので
1日わずか25円と
とても経済的です。**

水素(H2)と有害な活性酸素の働き

体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H2O)になり、お体を健康へと導いてくれます。
1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。

※日本国特許第4252434号
※アメリカ合衆国特許番号:USP 7,189,330
※中国特許登録：ZL 2005 1 0068852.5
※韓国特許登録:529006号
※国際特許申請中

6ヶ月間 1ヶ月に一度の穀物酢洗浄なし

従来品より原材料が1.5倍

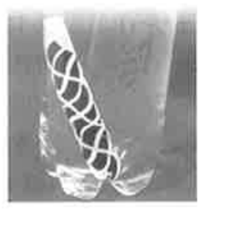
水素量が30%up

経過日数	溶存水素濃度 (ppm)	
	プレミアムスティック	従来スティック
1日	1.43	1.04
1カ月	0.76	0.71
2カ月	0.79	0.62
3カ月	0.82	0.56
4カ月	0.86	0.42
5カ月	0.88	0.29
6カ月	0.80	0.23

試験条件：
1本／500ml PETボトル
溶存水素濃度計測後
毎日全量水交換

計測機器：
エイブル株式会社製
溶存水素濃度計 DHS-001

ドクター・水素水 PREMIUM





ドクター・水素水 PREMIUM
1箱3本入り
メーカー希望小売価格
6ヶ月タイプ 13,440円(税込み)

www.dr-suisosui.com

株式会社 FDR・フレンディア
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-2 大畠ビル5F 502号
Tel:03-5728-0132 Fax:03-5728-0138

フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

水素についてもっと詳しくお知りになりたい方は下記のサイトをご覧下さい。
各大学機関が各学会誌に論文を発表しております。
www.aboutsuisosui.com

コーチ・レフェリーシンポジウム2009報告

競技者育成技術委員会

ここ数年計画はしておりましたが、開催に至らなかった「コーチ・レフェリーシンポジウム」を今年は開催できました。その中心内容としては、昨年7月28日から31日まで開催された、「IHFコーチ・レフェリーシンポジウム」の講習内容の伝達と、もう一方、女子は昨年12月5日から20日まで開催された「第19回女子世界選手権大会」、男子では、2月6日から19日まで開催された「第14回男子アジア選手権大会」（今年12月スウェーデンで開催される男子世界選手権大会の予選）に関する男女代表監督の報告を中心に開催いたしました。

日程に関しては、東京体育館で開催される「JHLプレーオフ」とタイアップして開催いたしました。

開催日時：平成22年3月20日～21日
開催場所：日本青年館
参加者：公的資格保有者、
　　　　並びに公認審判員　82名

第1日目

①9：30－10：00

開催にあたり主催者側から川上専務理事、角常務理事（競技者育成技術委員会担当）、笹倉指導委員長、植村審判委員長らから開催の挨拶があった。

②10：00－11：30

IHFシンポジウム（コーチ・レフェリー）報告

その1　コーチ部門
栗山雅倫　女子ナショナルコーチ

実際にシンポジウムに参加した栗山氏からは、シンポジウムの日程や大まかな流れ、参加しているコーチの様子などの報告から始まり、今回のシンポジウムのテーマである「ジュニアのための一貫指導」について説明があった。実際に行われたドイツ、スペインなどの各国の一貫指導の考え方と、その後に行われた実技内容の幾つかの紹介があった。

その2　レフェリー部門
植村審判委員長

IHFコーチ・レフェリーシンポジウム及び2010年競技規則改訂について概要の報告がされた。競技規則改定は、国内では以下の通り改訂内容の一部のみ4月1日より暫定的実施をする。

（1）「追放」がなくなる。「暴力行為」は「失格」＋「報告書」そしてさらなる「懲罰の付加」となる。
（2）ゴールキーパーの危険回避義務について
（3）同様に7mスロー・フリースロー時の危険回避義務について
（4）ブロックは原則として受け身であることについて

第2日目

①9：00－10：20

日本代表監督現状報告

女子監督：黄慶泳氏及び男子監督：酒巻氏より、直近に開催された「第19回女子世界選手権大会」、及び、「第14回男子アジア選手権大会」の戦いの総括が熱く語られ、又、ナショナルチームのスタートからこれまでのトレーニングや課題についての報告があった。



女子監督：黄　慶泳氏



男子監督：酒巻清治氏

②10：20－11：00

世界の動向（女子世界選手権分析から）

指導委員長：笹倉清則

今回の女子世界選手権大会終了後に、IHFホームページ上に発表された「テクニカル分析」の紹介があった。その中に以下のようなポイントがあり、映像を含めた紹介があった。

・流動的な防御
・韓国を追いかけている日本
・片手でのボールハンドリング
・素早い速攻

次に、ハンドボールトレーニング（ドイツ）で扱われた女子フランスの防御の報告、そして独自の観点で集計したデータから観た世界と日本の現状の報告があった。



③11：00－11：20　これからのNTS

NTS委員長　関　健三



昨年末から新しく、NTSの「運営委員」と「技術指導員」に別れて活動していくシステムの説明と協力依頼の説明があった。

④11：20－12：00

コーチ・レフェリー合同シンポジウム2

問題提起　審判長　植村　彰
2010年競技規則改訂（IHFは7月1日施行）全般の概要

（1）競技規則　8条と16条の変更
（2）パッシブプレーについて
（3）タイムキーパーやTDによる中断について
（4）キャプテンの文言復活
（5）背番号1～99の限定
（6）交代地域規定「コーチングゾーン」についての規定
（7）その他
　・競技規則5条10項の除外
　・競技規則6条2項について
　・競技規則6条5項について
　・競技規則9条1項について
　・競技規則17条14項について

及び、国内における伝達および新競技規則（競技規則必携含）の発行についての報告および説明があった。

平成21年度JHAレフェリーコース研修会に参加して

岐阜大学大学院2年　森　裕太（岐阜県協会所属）
南山大学4年　鈴木孝明（愛知県協会所属）

今回、JHAレフェリーコースに参加し非常に貴重な経験ができたことに感謝の気持ちと充実感を覚えています。

思えば、ペアを組んでからこれまでの過程は決して平坦ではありませんでしたが、レフェリーとして、またハンドボールを支える一人の人間として、確かな成長を確かめることができた時間だったと感じています。

前期（長浜ドーム大会）の研修は、初めてペアを組み、互いのレフェリングについてわからない部分ばかりで、探り探りのうちに３日間が過ぎました。講師の先生方に多くの指導を賜りながらも、その分多くの課題に出会いました。そんな私たちにとって急務であったのは、後期までの間に出来る限り多くの試合を共に吹笛し、先生方から与えていただいた課題を「ペアとして」克服していくことでした。私たちは所属の県が違いながらも、同ブロックでお互いの自宅の距離が比較的近いことで、いつも研修の機会を与えていただく東海学生リーグをはじめ岐阜県内の大会、さらには前期講師で国際審判員の家永昌樹氏のご厚意により、JHL女子チャレンジリーグにおいても吹笛する機会を得ることができました。この間自分たちで吹いた試合はなるべくビデオに残し、お互いに衝突することもありましたがペアで反省を繰り返し、ジェスチャー・罰則の基準・ステップの管理・ペア間での役割分担・アドバンテージの見極め等、毎試合課題を持って２人で取り組んできました。また、国際審判員の池渕智一氏や東海ブロック審判長の楓健児氏をはじめ、多くの先輩レフェリーの方々や関係チームスタッフの皆さまから様々なご指摘をいただくことができ、本当に幸せな環境でした。

後期（函館市長杯）では、これまでの研修の成果といつも通りの自分たちを出そうと心掛けました。試合の吹笛のみならず、他ペアの試合を観察したり、試合の合間をぬってルールテストの勉強をしたり、講義の後はビデオに記録した自分たちの試合を観て反省したりしました。また、講師の先生方から、前期同様鋭く温かい視点で指導・評価を賜り、また１つ成長することができたと思う一方、多くの課題にも出会い、今後の自分たちにとって非常に充実した３日間を過ごすことが出来ました。

前後期と研修させていただく中で感じたことは、選手は試合に勝つために厳しい練習を積んでいるように、レフェリーも同様にトレーニングに励み、プレーの正しい評価ができるよう、ハンドボールの特性や魅力・個人技術やチーム戦術・ゲーム観に対する理解を高めなければならないと感じました。本研修でのB級取得に満足せず、これをステップとして次の目標であるA級取得を目指し、早くトップの舞台に立てるよう、今後も精進していく所存です。

最後に、ご指導を賜った講師の先生方をはじめとする多くの先輩レフェリーの皆さま、研修の機会を与えていただいた関係者の皆さまに心より感謝の意を表します。本当にありがとうございました。また、これからもご指導のほどよろしくおねがいします。



平成21年度JHAレフェリーコース後期研修会　於：北海道函館大学体育館

平成22年度 第13回ハンドボール研究集会要項

テーマ「ゴール型教材としてのハンドボール ―その3―」

趣　旨　平成20年3月28日に改訂告示された小学校新学習指導要領では、5・6年生のボール運動が現行の種目の列挙を改定して3つの型に分けられ、多彩な運動が選択できるようになった。すなわち、内容の取扱いの中で、「ゴール型はバスケットボール及びサッカーを、ネット型はソフトバレーボールを、ベースボール型はソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるもの」とされ、さらに「学校の実態に応じてベースボール型は取り扱わないことができる」とされた。すでにハンドボールについては、従前の指導要領の全面実施によって、多くの授業実践が報告されるようになってきた。そしてほぼ10年間に渡る学校体育ハンドボール検討委員会の活動の成果として、ハンドボールは子どもたちの投能力を中心とした体力・運動能力の向上に適していることに加えて、他のボール運動より教材づくりや戦術学習が容易であること。さらに、小学1年生から6年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできることなど、独自の諸特性をもっていることが明らかにされている。従って今回の改訂を受け、走・跳・投のバランスのとれたハンドボールの教材としての価値がさらにアピールされていくとともに、低・中学年のゲーム領域との関連性を考慮した一貫指導体系が確立されていかねばならないという必要性に迫られている。本研究集会では、ハンドボールの魅力や諸特性に対してさらに認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の構築を目指した内容について研修する。

主　催　（財）日本ハンドボール協会　　**主　管**　長野県ハンドボール協会
後　援　文部科学省　長野県教育委員会　佐久市教育委員会
対　象　小学校・中学校および高等学校教諭　教員養成大学学生・大学院生および教員
地域スポーツ指導者、日本ハンドボール協会J級指導員等
会　期　平成22年8月4日（水）～5日（木）
会　場　佐久市立中佐都小学校
〒385-0025 長野県佐久市塚原808番地　TEL（0267）67-3418　FAX（0267）67-3438
長野新幹線「佐久平」駅、浅間口より望月方面へ徒歩30分

日　程
◆8月4日（水）　受付　12：00～12：30／開会式　12：30～12：50／講演　12：50～13：50　講師　文部科学省教科調査官　佐藤　豊／研究発表　14：00～15：10／実技研修　15：30～17：00　講師　信州大学教育学部准教授　渡辺敏明／交流会　18：00～20：00
◆8月5日（木）　受付　8：30～9：00／授業提案　9：00～11：00　佐久市立中佐都小学校3年「ハンドボール」授業　佐久市立中佐都小学校5年「ハンドボール」授業／講義　11：00～12：00／講師　筑波大学名誉教授　大西武三／閉会式　12：00～12：15

学校体育ハンドボール検討専門委員会事務局
〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1－1
秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座　佐藤　靖気付　　TEL（018）889-2577　　FAX（018）889-2577
E-mail：yasushi@ed.akita-u.ac.jp

大会事務局
〒385-0025 長野県佐久市塚原808番地
佐久市立中佐都小学校　小岩井浩明気付　　TEL（0267）67-3418　　FAX（0267）67-3438
E-mail：mailto:nakasato@sakushi.ed.jp

参加費　4,000円（学生、大学院生2,000円。資料代、および保険料込み。当日受付にて徴収いたします。）

参加申込
①氏名　②年齢　③勤務先　④連絡先住所・電話番号　⑤交流会参加の有無を明記の上（書式自由）、ハガキ、ファックスまたはEメールにて大会事務局までお申し込み下さい。
1）締切り日:特に設けません。当日も受け付けます。（但し、宿泊希望者は下記7月15日（木）までにお願いいたします。）
2）派遣書が必要な場合は、その旨ご記入下さい。

発表申込
研究集会のテーマに関係する研究、および実践報告を募集します。発表を希望される方は、学校体育ハンドボール検討専門委員会事務局まで直接ご連絡下さい。
1）口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき約12分です。発表時間は演題数により変更することもあります。
2）発表にはビデオ、パワーポイントまたは資料等を使うことができます。資料を配布される方は、100部程度ご用意下さい。
3）締切り日：平成22年7月20日（火）
尚、資料の送付を希望される方は、期限までに大会事務局までご郵送下さい。その他、発表に関してご不明な点はお問い合わせ下さい。

平成 22 年度 実践研究推進校募集要項

「小学校体育科授業におけるゴール型ハンドボール教材の展開について」

1 趣 旨

小学校におけるゴール型教材としてのハンドボールの課題について、総合的に実践研究を行ない、体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2 研究実践内容

（1）実践研究のテーマは次のとおりとする。

ア 児童の体力（投能力）の向上に関する取組の在り方と進め方。

イ 簡易ゲーム（タスクゲーム等）の工夫とその指導の在り方。

ウ ゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の在り方。

エ その他

（2）推進校は、「ゴール型ボール運動」、もしくは「ゲーム」でハンドボールを取り上げ、上記の内容から二つ以上のテーマを選び、その一つを主テーマとして、実践研究を進めることとする。

3 研究実践期間 おおむね２年間とする

4 対象推進校

各都道府県協会より推薦された小学校の中から８校程度選定する。選定は（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討専門委員会で行なう。

5 推進校の運営

（1）推進校は、校内における研究体制を整備し、必要に応じて家庭や地域との連携も図りながら、計画的、継続的に実践研究を推進する。

（2）推進校は、（財）日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会（市町村ハンドボール協会）の助言の下に実践研究を推進すること。

（3）推進校は、第１年次には実践研究の中間報告書を、また、実践研究期間の終了時には、研究成果報告書を、それぞれ日本協会の指定する様式にしたがって、都道府県協会を経由して日本協会に提出すること。

（4）日本協会は、必要に応じて推進校および都道府県協会と連絡をとり、実践研究の推進について意見および情報の交換を行なう。

6 経 費 日本協会は、研究委託費として予算の範囲内で支出委任する。委託費は、１年目が６万円、２年目が４万円とする。

7 その他 日本協会は、必要に応じて実施状況および経理処理状況について、実態調査を行なう。

8 締 切 第一次締切：平成 22 年 7 月 20 日（火）

9 申込、および問合せ先

ご不明な点は、以下にお問い合わせ下さい。

（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討委員会（代表 佐藤 靖）
〒 010-8502 秋田市手形学園町 1-1 秋田大学教育文化学部
スポーツ・健康教育講座 佐藤研究室 TEL/FAX：018-889-2577 E-mail：yasushi@ed.akita-u.ac.jp

第8回ハンドボールコーチング研究会総括と今後の展望

田中　守（ハンドボールコーチング研究会代表・福岡大学）

【研究会発足と進展】

研究会の展望を語る上で重要なことは、研究会の歴史のみならずハンドボールコーチング研究の歴史を顧み、現状を把握することにある。

研究会初代代表の平岡秀雄先生のご尽力により、2003年3月7日夜、熊本県山鹿市の寿三旅館の座敷で第1回研究会が開催された。十数名の有志と、同日に開催されたコーチシンポジウムに参加した多くの指導者の参加により、活発な議論が行われた。

日本ハンドボール協会での位置づけは、普及部指導委員会の中に「コーチング研究部会」として設置された。従って、第1回目はほぼ毎年開催されている指導委員会主催の「コーチシンポジウム」を初めて地方で開催することと併せて実施された。

研究会発足の主旨は、ハンドボールコーチングに日夜努力する指導者が議論し、競技力を高めるための道筋を見出すこと（平岡，2003）にある。そして、日本が世界のトップレベルに到達するために必要な現状分析を行い、これらの成果がその礎となることを期待している。

このような考え方でスタートした研究会の研究分野別発表数は表1の通りである。現場で必要とされる技術・戦術分析が比較的多く、特にパソコン等を活用した分析方法の格段の進歩により、多面的な技術・戦術分析ができるようになったことは目覚ましい進歩であり、現場で有用なアイテムとなってきている。さらに、最近では「コツ」や「勘」、「運動感覚」など現場で非常に重要な内容が研究対象にもなってきている。また昔からの研究テーマでもある体力研究が継続してなされており、ますます議論が活発になってきていることは頼もしい傾向といえる。怪我や栄養に関する研究などは古くて新しいテーマである。

本研究会の副次的ねらいにもある学術的研究としての成果発表の場である研究誌「ハンドボール研究」への掲載も、2004年の第6号から毎号3～5編が掲載されている。

表1　研究会における研究分野別発表数

研究分野	第1回 山鹿	第2回 東京	第3回 東京	第4回 東京	第5回 東京	第6回 東京	第7回 東京	第8回 東京
研究会登録者数（名）	16	24	41	27	33	31	29	31
トレーニング法	1							
活動特性・体力	2	2	2	2	1	2	1	
ゲーム構造	2			1	1		1	
分析法	1	2	1	2	1			
技術分析		1	1	5	3	1	3	4
戦術分析			2	1	1	5	1	1
普及強化の取り組み		1	1			1		1
医学			1		1	1	1	1
審判			1		1			1
栄養						1	1	
発表演題数合計	6	6	9	11	9	11	8	8
備　考				ベルト氏講演			田中氏講演	大西氏講演

【ハンドボールコーチング研究の歴史】

かつて、研究発表の場は日本体育学会の体育方法専門分科会であり、その多くが「技術・戦術研究」や「体力研究」であった。

その後、さまざまなテーマを持って多くの研究会が分化し、その多くは現在学会化しており、ハンドボールコーチング研究発表の場も分散化してきている。具体的には、比較的大きな組織ではスポーツ方法学会、スポーツ運動学会、日本トレーニング学会などがあり、2003年度からはスポーツコーチング研究会もスタートしている。ただ、ハンドボールコーチング研究としての内容に大きな変化はなく、むしろ演題数は減少してきている傾向にあった。

一方で、ハンドボールコーチング研究として非常に価値のある報告は、国外からたくさんなされている。ドイツで月刊誌として刊行されている「ハンドボールマガジン」や「ハンドボールトレーニング」は、常に新鮮な情報が提供されており、一時期月刊誌「スポーツイベントハンドボール」に翻訳されたものが連載されたこともある。また、ほぼ2年に一度開催されるIHFコーチシンポジウムで、世界トップレベルの戦術の考え方やトレーニング法が紹介されている。以前からナショナルスタッフが参加しながらも、これら貴重な情報が国内に入ってきていないことは残念であったが、1989年から指導委員会のメンバーも参加し、資料を翻訳して情報を伝えてくれるようになった。強化も普及も審判も、世界基準で取り組むための情報が入るようになった訳である。残念ながら、2002年を最後にまた途絶えてしまったが、今年3月のコーチング研究会後に開催された「レフェリー・コーチシンポジウム」で復活したのは嬉しい限りである。

そのような中で、2003年「ハンドボールコーチング研究会」がスタートしたことは、大きな前進であり、発足の主旨や目標達成に向けて議論が活発に行われ、「ハンドボールコーチ学」の構築に寄与することが期待できる。既に2000年からスタートしているNTS（ナショナルトレーニングシステム）も、選手発掘方法やその後の育成段階における共通認識に立った一貫指導体制の構築に寄与することが期待できる。

【第8回研究会総括】

昨年は、前研究会代表の平岡秀雄先生の後任として代表を引き受けた関係で、冒頭に第10回目



以降に向けた研究会の取り組みを含めて「研究会の展望」と題した講演をさせていただいた。

今回は、指導委員会を長年に亘って率いてこられ、学校体育研究会とも併せてコーチング研究をもリードし、併行して約40年間に亘って筑波大学監督として数々の実績を残され、昨年退官された大西武三先生（筑波大学名誉教授・前日本協会専務理事）に基調講演をお願いした。「コーチングの発展を願って」と題した内容は、1．ジュニアの指導、2．ゲームの組み立て、から構成され、大西先生の得意とする世界レベルの映像を独自に編集したものを交えながら、非常に興味をそそるものであった。予定していた50分をはるかにオーバーするほどとても情熱的な講演であった。その後、8名の演者による発表が行われ、その内容は目次に示すように多岐に亘っていた。何より、質疑応答で活発な議論がなされ、非常に実りの多い研究発表会であった。



田中守・コーチング研究会代表



大西武三氏・筑波大学名誉教授

【今後の展望】

研究会の発足10年（2012年）を草創期とするならば、その後の発展期に向けて、以下の取り組みが必要と考える。

1．「コーチング研究」の名称のごとく、現場のコーチングに生かす研究発表の場に、多くの現役コーチやコーチ経験者あるいはそれをサポートする方々が参加し、議論できる環境作りを進めてゆく。

2．基調講演、教育講演、シンポジウムなども精力的に取り入れ、多くの情報提供の場にしてゆく。

3．現場に生かす研究発表と議論の場づくりを主眼としながら、学術的色彩をも持つ「ハンドボールコーチング学会」設立に向けて準備する。そのための組織づくりも進める。

4．唯一のハンドボール学術雑誌である「ハンドボール研究」への投稿を推奨すると同時に、編集委員会を組織して価値の高い研究誌を推進する。

【現在の研究会組織】

代　　表：田中　守（福岡大学）
顧　　問：平岡秀雄（前代表・相談役）
事務局長：栗山雅倫（東海大学）

参加者名簿

	氏　名	所　属
1	浅野　幹也	日本ウェルネススポーツ専門学校
2	平岡　秀雄	東海大学スポーツ医科学研究所
3	原田　貴透	
4	緒方　嗣雄	
5	丸井　一誠	福岡大学
6	田中　守	福岡大学
7	近久　紀人	日本協会
8	舎利弗　学	福島高校
9	中島　瑛介	岐阜大学大学院
10	濱口　朋幸	福岡大学
11	安達　隆博	九州産業大学
12	清水　宣雄	国際武道大学
13	櫻井恵志朗	知立東高等学校
14	中川　善章	中京大学大学院
15	河合　威廷	中京大学大学院
16	八巻　尚士	中京大学大学院
17	品田麗絵子	石神井高等学校
18	明石　光史	福岡大学
19	花岡美智子	東海大学
20	三輪　一義	琉球大学
21	村松　誠	駒澤大学
22	角　紘昭	日本協会
23	金城　一史	沖縄県協会
24	坪井　雅典	知立東高等学校
25	高橋　琴美	武蔵丘短期大学
26	吉村　晃	中京大学大学院
27	市村　志朗	東京理科大学
28	斎藤慎太郎	大同大学
29	小笠原一生	国立スポーツ科学センター
30	森口　哲史	鹿児島大学

研究発表目次

【3月19日（金）】

13：00　受付開始

14：00　開会のご挨拶　角　紘昭（日本ハンドボール協会常務理事）
　　　　田中　守（コーチング研究会代表）

14：05　基調講演「コーチングの発展を願って」　講師　大西武三氏（筑波大学名誉教授）

<発表>

15：00　ゴールキーパーの予測時期に関する考察
　　　　栗山雅倫（東海大学）

15：20　ハンドボールにおける基本プレイ・アルゴリズム構築に関する研究
　　　　―レフェリングのコンセプト―
　　　　清水宣雄（国際武道大学）

15：40　トップレベル・スポーツクラブマネジメントに関する一モデルケース
　　　　浅野幹也（日本ウェルネススポーツ専門学校名古屋キャンパス）

16：00　休憩

16：10　ハンドボールにおけるクイックシュート技能の指導手順について
　　　　平岡秀雄（東海大学スポーツ医科学研究所）

16：30　ハンドボールの投動作に関する研究（2）
　　　　―小学生のボール把持力とフォームの関係―
　　　　中島瑛介（岐阜大学院）杉森弘幸（岐阜大学）下川真良（朝日大学）

16：50　全日本学生ハンドボール選手権大会におけるトレーナー活動について
　　　　花岡美智子（東海大学）

17：10　ハンドボール競技におけるサイドシュートの決定要因
　　　　明石光史、藤井寛之、田中　守（福岡大学）

17：30　オフェンス・トランジション場面の量的分析
　　　　市村志朗（東京理科大学）森口哲史（鹿児島大学）

17：50　閉会の辞　平岡秀雄（前コーチング研究会代表）

2010年度 全国大会レフェリー名簿

（平成22年6月1日現在）

大会	開催地	期日	審判員氏名			開催地
実業団選手権	徳島県	7月7日	◎吉田　敏明　○藤原　初（徳島）	浜田　浩和・小笠原久郎（トップ）	福田　弘・冨田　拓（トップ）	徳島県
（8ペア）	徳島市	～	多田　和生・中舘　豊（トップ）	黒木　龍二・黒木　秀吾（トップ）	河合　威廷・臼井　健（愛知）	徳島市
	北島町	7月11日	前田　隆志・山本　剛（大阪）	金子　慎吾・川上健一郎（長崎）	濱田　哲雄・弘田　睦仁（高知）	北島町
全国小学生大会	京都府	7月30日	◎植村　彰　○国府　勝			京都府
（4ペア）	京田辺市	～	秦　隆二・秦　伊織（石川）	船津　克弘・根来　英介（愛知）	服部　博幸・大平　忠一（長野）	京田辺市
		8月1日	園　充利・大場　義隆（京都）			
			◎細沢　覚　○大橋　幹正	比留間　康・北嶋　浩（トップ）	多田　和生・中舘　豊（トップ）	
			杉山　寛政・各務　宗孝（岐阜）	亀山　耕司・水谷　省一（北海道）	萩原　亨・小松　大（秋田）	
			四元　俊一・野中　毅（栃木）	土橋　邦彦・清水　啓佑（長野）	坪井　雅典・神谷　眞次（愛知）	
全国高校総体	沖縄県	7月31日	川勝　裕義・近藤　和矢（京都）	寺内　啓之・細川　泰輔（大阪）	山本　淳・奥村　佳弘（島根）	沖縄県
（24ペア）	浦添市	～	三宅　秀明・石原　秀和（岡山）	長谷部次雄・清水　修（高知）	渡辺　一昌・高木　優明（香川）	浦添市
	八重瀬町	8月6日	亀井　一寿・堀川　智宏（大分）	近藤　晋一・岩本　太（熊本）	荒木　裕志・岩崎　栄一（宮崎）	八重瀬町
			海江田貴詞・神田　史郎（鹿児島）	儀間　稔・末吉　哲（沖縄）	黒島　直人・金城　勇人（沖縄）	
			平良　徳彦・神里　太（沖縄）	新里　泰司・神谷　綱史（沖縄）	水内　隆夫・小林　智隆（新潟）	
			岩本　真典・山口　修（埼玉／広島）			
ジャパン			◎植村　彰　○藤井　俊朗　○		浦川　寿生・石崎　章弘（トップ）	
オープン	山口県	8月13日	外舘由美子・中野奈穂美（岩手）	仲野　和也・藤坂　明雄（福井）	角　直樹・白川　裕隆（山口）	山口県
（12ペア）	周南市	～	伊藤　奨・渡辺　英治（山形）	堀江　成典・梶原　敏幸（東京）	梅木　信男・土松　稔和（岐阜）	周南市
		8月17日	川江　俊樹・徳光　明博（石川）	佐路　清隆・佐藤　晃（京都）	水津　研二・岡田　雅央（山口）	
			後藤　聡・横手　健太（香川）	亀井　一寿・堀川　智宏（大分）		
			◎齊藤　仁宏　○久保　博（広島）		野島　祥之・石原　秀和（トップ）	
全国中学校	広島県	8月17日	佐々木皇介・安田　達（広島）	岩角　聖孝・上飯坂　徹（岩手）	二瓶　元嘉・本田　隆（福島）	広島県
（9ペア）	呉市	～	横川　賢一・中田　隆（栃木）	徳前　紀和・森　義久（富山）	足立　智司・田中　基明（愛知）	呉市
		8月20日	作道　勉・田鍋　由朗（愛媛）	上杉　洋一・宮﨑　和彦（大分）		
			◎植村　彰　○中山　富夫　○仲田　稔			
			安田　寛・永春　文義（トップ）	多田　和生・中舘　豊（トップ）	黒木　龍二・黒木　秀吾（トップ）	
国民体育大会	千葉県	9月30日	福田　弘・冨田　拓（トップ）	荒尾　祐治・桜庭　正明（青森）	本田　昭太・田渕　元雄（神奈川）	千葉県
（18ペア）	市川市	～	杉山　寛政・各務　宗孝（岐阜）	高橋　容平・磯部　尚志（北海道）	加藤　茂樹・大内　敦史（宮城）	市川市
	香取市	10月4日	池田　勝・長瀬　浩（埼玉）	田中　啓輔・大塚　清彦（千葉）	土橋　邦彦・清水　啓佑（長野）	香取市
			油上　智・中村　行志（静岡）	矢本　康成・福永　賢一（兵庫）	角　直樹・白川　裕隆（山口）	
			山本　圭司・山本　篤洋（岡山）	岩本　靖史・藤原　初（徳島）	儀間　稔・末吉　哲（沖縄）	
			◎佐野　和夫　○吉田　正明	＊各ブロック連盟からの推薦を参考に	再調整。	
			浜田　浩和・小笠原久郎（トップ）	田中　潤・河合　哲（香川）	本田　昭太・田渕　元雄（神・東）	
全日本学生	大阪府	11月19日	（　）	（　）	（　）	大阪府
（3ペア＋11）	大阪市	～	（　）	（　）	（　）	大阪市
		11月23日	（　）	（　）		
			（　）	（　）		
全日本総合	男 東京都	12月22日	◎植村　彰　○中山　富夫 ＊第1回審判審査指導委員会で決定。			男4 東京都
（8ペア）	女	～ 12月26日	◎植村　彰　○ ＊第1回審判審査指導委員会で決定。			女4
			◎齊藤　仁宏　○松原　英司		比留間　康・北嶋　浩（トップ）	
			中川　満則・小田　健介（北海道）	嶋川　直樹・宮本　真一（青森）	山口　敦・川村　俊彦（岩手）	愛知県
ＪＯＣカップ	愛知県	12月25日	得居　秀匡・村上　隆（東京）	関口　直人・矢崎　豊（山梨）	水内　隆夫・小林　智隆（新潟）	名古屋市
（14ペア）	名古屋市	～	丸山　竜司・貝沼　圭吾（三重）	片山　聡・大岩　広人（静岡）	北山　力也・貝田　良寛（兵庫）	14
		12月28日	吉田　達明・藤原　孝夫（鳥取）	山本　耕一・壷内　博章（愛媛）	平島　哲也・鈴木　康弘（福岡）	
			児玉浩三郎・大渡　達也（長崎）			
			◎植村　彰　○齊藤　仁宏　○岩上浩一朗　○樋上　敦士			
			黒木　龍二・黒木　秀吾（トップ）	飯村　裕志・中村　純也（茨城）	仲野　和也・藤坂　明雄（福井）	
春の中学大会	富山県	3月26日	兒島　悟・川端　祐貴（福岡）	貞島　早苗・林　奈緒美（佐賀）	村瀬　清史・石垣　正樹（北海道）	富山県
（18ペア）	氷見市	～	大沢　勝・佐々木　歩（岩手）	安孫子　功・高橋　善浩（山形）	小澤　邦紀・越智　康裕（福島）	氷見市
		3月29日	松川　純史・安井　定徳（神奈川）	戸塚　幸廣・勅使河原誠（群馬）	川江　俊樹・徳光　明博（石川）	18
			金坂　英宣・談議所啓輔（石川）	大石　克哉・桜打　佳浩（富山）	須原　幸一・山田　祐輔（三重）	
			古角　芳忠・濱口　雄飛（兵庫）	大崎　祥弘・宮崎　光一（高知）	積　芳広・庄屋　亮二（鹿児島）	
			◎細沢　覚　○大橋　幹正　○田村　登			
			安田　寛・永春　文義（トップ）	多田　和生・中舘　豊（トップ）	島尻真理子・河合　里美（東京／愛知）	
全国高校選抜	岩手県	3月25日	蟻川　武司・瀬良　研一（愛媛）	米内山壯之・篠原　理（北海道）	今野　秀樹・浅井　宏信（北海道）	岩手県
（18ペア）	花巻市	～	森　義則・佐々木充宏（秋田）	西山　健臣・木村　篤史（宮城）	野地　敏雄・小俣　宏之（福島）	花巻市
		3月30日	福田　弘・冨田　拓（茨城）	松坂　孝之・池畑　大（千葉）	柏　博聡・岡　裕之（石川）	18
			田中　宏育・矢田　晃章（富山）	疋田　雅巳・加藤　俊宏（愛知）	松川　雄司・加世田祐作（愛知）	
			佐々木昌弘・高原　浩徳（大阪）	森實　岳史・河野　翔保（愛媛）	金子　慎吾・川上健一郎（長崎）	

協会だより

平成 22 年度 第 1 回評議員会第 1 回理事会

日　時：平成 22 年 6 月 6 日（日）
9：15 ～ 10：30
場　所：日本青年館ホテル 5 階 501 会議室
出席者（敬称略、名簿順）：
評議員：松喜美夫、田辺哲彦、谷藤勝美、後藤義信、安田博之、山下勝司、齋藤光男、風間勝也、平塚一彦、山川博行、石川直樹、夏目眞治、名倉昭弘、中村博幸、千葉英之、中井公人、田中秀和、森安昭雄、加藤　晃、松本育男、長尾輝夫、武田末男、川村浩之、末次　功、大宮　泉、冨松秋實、西花丈雄、朝生和光、齊藤節郎、阿部富夫、川原繁樹
以上 31 名
委任状提出評議員：今野正志、菅野　肇、奥山重雄、上久保重次、大東秀明、竹内佳明、中浦　悟、浜野大助、庄司勝三、村木啓作、秋永昭治、吉田博二、森江和吉、高野　修、田中達男、石井通義、税所健好、新垣　健
以上 18 名
理事：市原則之、多田　博、川上憲太、高村誠一、伊藤宏幸、角　紘昭、西窪勝広、江成元伸、蒲生晴明、大橋則一、志々場修二、植村　彰、田中　茂、松井幸嗣、稲生　茂、山本　一
以上 16 名
委任状理事：渡邊佳英、工藤雄三、河先　修、城川俊久
以上 4 名
監事：塩川安賢、荘林康次、高田日呂美
以上 3 名
特任副会長：山下　泉、川上整司　以上 2 名
参事：石塚廣一、古屋正俊、小西博喜、小島収治、高山重雄、杉本眞一、佐藤喜一、坂本静男、関　健三、中野利一、堀美和子、近久紀人、大原康昇、大村　久、山本　繁、佐久間克彦、福地賢介、田中　守、後藤　登、越田義昭、仲田　稔、藤森　徹、兼子　真
以上 20 名
参事代理：西内浩真　　（事務局）兼子
以上
評議員会・理事会議事録署名人　市原則之議長、森安昭雄評議員、阿部富夫評議員、川上憲太専務理事

■市原副会長より挨拶

2 つ申し上げたいと存じます。一つは、一般若しくは公益法人化の検討をしておりますが、評議員・理事の重みが今以上に重要となってきます。出来るだけ出席され、色々な意見・要望を発言されるようお願いします。二つ目は、ジャパンカップです。総力を結集して、オリンピック出場に向け勝利の重みを感じて欲しいと考えています。皆様の今後のサポートをお願い致します。

審議事項

1．平成 21 年度事業報告書（案）について

川上専務理事より、平成 21 年度の事業について、1）普及指導、2）競技、3）国際、4）審判、5）強化、6）機関誌、7）企画、8）広報、9）財務会計、10）日本リーグ、11）総務、12）10 万人会、13）マーケティングの順に概要が説明された。

田中参事より、ルール及び競技の変更に関して、現場へ情報伝達が十分にされていない状況もあるので、徹底を御願いしたいとの意見があり、江成・植村各常務理事より対処していきたいとの回答があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成 21 年度決算書（案）について

伊藤財務担当常務理事より、平成 21 年度の決算について概要が説明された。

事業活動収入合計 444,988,497 円、事業活動支出合計 407,873,167 円、他積立金取り崩し収入、積立金支出があり、その結果次期繰越額 114,324,567 円となった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．監査報告

荘林監事より 5 月 31 日に監事 3 名の立ち会いで監査を行い、業務及び会計処理など適性であったことが報告された。

4．平成 22 年度第一次補正予算（案）について

伊藤財務担当常務理事より、平成 21 年度の決算が確定したことと一部見直しがあったことから、平成 22 年度第一次補正案について説明がなされた。

補正後、事業活動収入合計 516,556,000 円、事業活動支出合計 509,155,670 円、積立金支出 15,000,000 円、予備費支出 1,500,000 円、当期収支差額マイナス 9,099,670 円となり、次期繰越収支差額は 105,224,897 円となることが説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．平成 21 年度日本協会表彰者について

伊藤総務担当常務理事より、平成 21 年度の日本協会表彰者について、加盟団体及び日本協会からの推薦者一覧の説明がなされた。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．平成 22 年度会議日程及び平成 23 年度会議日程粗案について

伊藤常務理事より平成 22 年度の会議日程と平成 23 年度会議日程素案について、説明された。

2．平成 22 年度国際・国内・ブロック大会日程について

江成常務理事より平成 22 年度の国際・国内及びブロック大会の日程について、説明された。

3．強化（スタッフ、JOC 強化指定選手、年齢別）について

西窪常務理事より平成 22 年度強化スタッフ、第 1 四半期の JOC 強化指定選手、NTS により選出された年齢別の強化指定選手について説明された。また、関参事より NTS2010 年のブロックトレーニング実施方法について説明があり、今年度よりブロックトレーニングはスポーツ振興センターの助成金を受けている関係から、日本協会がブロック協会と事業委託契約して行うことが説明された。

4．普及関係（第 13 回ハンドボール研究集会他）について

山本参事より第 13 回ハンドボール研究集会の実施について、説明された。また角常務理事より「ハンドボール選手の少年期における体力づくり」ＤＶＤ作成コンセプトについて、説明された。

5．社会人連盟設立について

江成常務理事より社会人連盟は本年 4 月より発足したことになっているが、現在詳細事項について検討していることが説明された。

6．日本協会創立 75 周年記念事業について

川上専務理事より日本協会創立 75 周年記念事業について、記念誌の発刊予定と記念事業企画をプロジェクトとして検討していくことが説明された。

7．がんばれハンドボール 20 万人会について

中野参事より本年 4 月 1 日より正式に 20 万人会と名称変更をしたことについて、説明された。

8．その他

小西参事より車椅子ハンドボールの現状について報告があった。

予定していた議案について全て終了したので、10 時 30 分に平成 22 年度第 1 回評議員会第 1 回理事会は閉会した。

スコアールーム 第5回春の全国中学生選手権大会

開催期日：2010年3月25日(木)～29日(月)
会　　場：富山県・氷見市ふれあいスポーツセンターほか

【男　子】

▼ 1回戦

安　居(福　井) 25 (11－10、14－10) 20 下仁田(群　馬)
白　子(三　重) 27 (10－12、17－9) 21 氷見北部(富　山)
けやき台(茨　城) 32 (16－5、16－7) 12 城　東(徳　島)
滝　尾(大　分) 29 (13－8、16－7) 15 松　葉(千　葉)
はとり(愛　知) 21 (11－4、10－12) 16 総社西(岡　山)
山梨北(山　梨) 25 (8－14、17－8) 22 屋　代(長　野)
久　米(愛　媛) 19 (8－7、11－5) 12 信　夫(福　島)
小山第三(栃　木) 26 (13－6、13－10) 16 大　瀬(奈　良)
氷見南部(開催地) 23 (10－8、13－12) 20 大　宮(岩　手)
培　良(京　都) 28 (10－10、18－10) 20 三本木附(青　森)
松　崎(福　岡) 20 (7－9、13－8) 17 田　島(埼　玉)
仲　西(沖　縄) 37 (16－9、21－11) 20 土　佐(高　知)
本　通(北海道) 45 (19－5、26－6) 11 柏刈·柿崎(新　潟)
平　山(東　京) 26 (15－8、11－8) 16 羽　後(秋　田)
大体大附(大　阪) 37 (17－11、20－9) 20 清水第二(静　岡)

▼ 2回戦

竜　山(兵　庫) 21 (12－5、9－10) 15 安　居(福　井)
岩　国(山　口) 41 (21－6、20－13) 19 神　埼(佐　賀)
白　子(三　重) 38 (20－13、18－13) 26 五　橋(宮　城)
けやき台(茨　城) 31 (12－7、19－19) 26 出　水(熊　本)
滝　尾(大　分) 29 (12－8、17－11) 19 貴志川(和歌山)
はとり(愛　知) 24 (10－6、14－12) 18 東根第一(山　形)
日　吉(長　崎) 37 (19－6、18－5) 11 山梨北(山　梨)
久　米(愛　媛) 30 (13－5、17－12) 17 彦根南(滋　賀)
ヴァルト岐阜(岐　阜) 43 (19－1、24－10) 11 小山第三(栃　木)
氷見南部(開催地) 25 (11－6、9－14) 24 隼　人(鹿児島)
(2－1 延長 2－3)
(1 7mTC 0)

甲　田(広　島) 25 (11－10、14－13) 23 培　良(京　都)
松　崎(福　岡) 32 (20－5、12－14) 19 塩　江(香　川)
仲　西(沖　縄) 26 (12－8、9－13) 24 南林間(神奈川)
(1－2 延長 4－1)
本　通(北海道) 21 (13－9、8－8) 17 境港第一(鳥　取)
平　山(東　京) 33 (16－11、17－11) 22 根　上(石　川)
大体大附(大　阪) 42 (19－14、23－15) 29 三　松(宮　崎)

▼ 3回戦

岩　国(山　口) 32 (16－8、16－14) 22 竜　山(兵　庫)
白　子(三　重) 31 (16－14、15－9) 23 けやき台(茨　城)
滝　尾(大　分) 22 (9－8、13－7) 15 はとり(愛　知)
日　吉(長　崎) 33 (15－10、18－13) 23 久　米(愛　媛)
ヴァルト岐阜(岐　阜) 40 (18－11、22－17) 28 氷見南部(開催地)
松　崎(福　岡) 28 (22－7、6－8) 15 甲　田(広　島)
仲　西(沖　縄) 34 (18－12、16－12) 24 本　通(北海道)
大体大附(大　阪) 28 (13－8、15－9) 17 平　山(東　京)

▼ 準々決勝

岩　国(山　口) 32 (19－14、13－13) 27 白　子(三　重)
日　吉(長　崎) 24 (15－7、9－8) 15 滝　尾(大　分)
ヴァルト岐阜(岐　阜) 31 (19－11、12－12) 23 松　崎(福　岡)
大体大附(大　阪) 31 (15－15、16－13) 28 仲　西(沖　縄)

▼ 準決勝

日　吉(長　崎) 27 (12－16、15－9) 25 岩　国(山　口)
大体大附(大　阪) 36 (13－12、23－16) 28 ヴァルト岐阜(岐　阜)

▼ 決　勝

大体大附(大　阪) 40 (18－12、22－17) 29 日　吉(長　崎)

【女　子】

▼ 1回戦

勝者	得点	前後半	得点	敗者
西中原（神奈川）	24	（12－5、12－15）	20	大住（京都）
塩山（山梨）	29	（18－3、11－9）	12	境港第一（鳥取）
日枝（岐阜）	30	（13－6、17－5）	11	野辺地（青森）
矢巾北（岩手）	24	（14－8、10－11）	19	屋代（長野）
魚住東（兵庫）	30	（13－12、17－3）	15	富岡東（群馬）
雄新（愛媛）	18	（11－8、7－8）	16	清水第二（静岡）
小松南部（石川）	27	（13－4、14－7）	11	尾花沢（山形）
東久留米西（東京）	44	（22－2、22－6）	8	東月寒（北海道）
白子（三重）	27	（15－1、12－3）	4	中田（宮城）
光陽（福井）	32	（20－1、12－2）	3	亀山（広島）
松橋（熊本）	43	（18－7、25－3）	10	東陽（栃木）
三郷北（埼玉）	33	（14－4、19－7）	11	谷山（鹿児島）
琴浦（岡山）	31	（16－9、15－10）	19	湯沢南（秋田）
水海道（茨城）	34	（14－3、20－5）	8	土佐（高知）

▼ 2回戦

勝者	得点	前後半	得点	敗者
西中原（神奈川）	33	（20－1、13－3）	4	城東（徳島）
神森（沖縄）	23	（6－8、17－6）	14	氷見南部（開催地）
春吉（福岡）	17	（7－9、10－6）	15	塩山（山梨）
日枝（岐阜）	22	（15－2、7－8）	10	生駒（奈良）
岐陽（山口）	26	（14－9、12－11）	20	矢巾北（岩手）
魚住東（兵庫）	20	（12－5、8－8）	13	延岡（宮崎）
神埼（佐賀）	20	（8－6、12－7）	13	雄新（愛媛）
花園（千葉）	21	（10－7、11－4）	11	小松南部（石川）
東久留米西（東京）	27	（13－13、14－11）	24	原川（大分）
大阪ジュニア（大阪）	24	（13－8、11－13）	21	白子（三重）
光陽（福井）	21	（9－7、12－7）	14	香川第一（香川）
松橋（熊本）	26	（11－3、15－8）	11	郡山第一（福島）
平針（愛知）	22	（10－5、12－8）	13	三郷北（埼玉）
琴浦（岡山）	40	（23－7、17－10）	17	那賀（和歌山）
氷見西條（富山）	27	（13－1、14－7）	8	日野（長崎）
水海道（茨城）	41	（21－0、20－3）	3	多賀（滋賀）

▼ 3回戦

勝者	得点	前後半	得点	敗者
西中原（神奈川）	25	（7－10、18－10）	20	神森（沖縄）
日枝（岐阜）	18	（7－9、11－4）	13	春吉（福岡）
魚住東（兵庫）	23	（10－13、9－6） （2－2 延長 2－1）	22	岐陽（山口）
花園（千葉）	30	（15－4、15－6）	10	神埼（佐賀）
東久留米西（東京）	32	（12－11、20－5）	16	大阪ジュニア（大阪）
光陽（福井）	20	（13－8、7－9）	17	松橋（熊本）
平針（愛知）	32	（16－5、16－9）	14	琴浦（岡山）
氷見西條（富山）	27	（15－6、12－10）	16	水海道（茨城）

▼ 準々決勝

勝者	得点	前後半	得点	敗者
西中原（神奈川）	24	（13－13、11－10）	23	日枝（岐阜）
魚住東（兵庫）	25	（12－10、13－10）	20	花園（千葉）
光陽（福井）	24	（12－14、12－8）	22	東久留米西（東京）
平針（愛知）	27	（14－5、13－12）	17	氷見西條（富山）

▼ 準決勝

勝者	得点	前後半	得点	敗者
西中原（神奈川）	19	（10－6、9－10）	16	魚住東（兵庫）
平針（愛知）	21	（12－7、9－11）	18	光陽（福井）

▼ 決　勝

勝者	得点	前後半	得点	敗者
平針（愛知）	33	（16－8、17－12）	20	西中原（神奈川）





がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」4・5月入会・継続会員

【日本協会役員】米倉　功、渡邊　佳英、市原　則之、多田　博、山下　泉、川上　整司、鶴保　庸介、川上　憲太、高村　誠一、伊藤　宏幸、角　紘昭、西窪　勝広、江成　元伸、蒲生　晴明、大橋　則一、志々場修二、植村　彰、田中　茂、工藤　雄三、松井　幸嗣、河先　修、稲生　茂、城川　俊久、山本　一、塩川　安賢、荘林　康次、高田日呂美、石塚　廣一、古屋　正俊、小西　博喜、小島　収治、高山　重雄、杉本　眞一、前川　和三、佐藤　公美、佐藤　喜一、坂本　静男、関　健三、中野　利一、堀　美和子、村松　誠、近久　紀人、出原　理、笹倉　清則、佐藤　靖、大原　康昇、小山　哲央、大村　久、山本　繁、井口　京子、佐久間克彦、福地　賢介、田中　守、後藤　登、越田　義昭、仲田　稔、藤森　徹、兼子　真　**【日本協会評議員】**松　喜美夫、田辺　哲彦、谷藤　勝美、今野　正志、菅野　肇、奥山　重雄、後藤　義信、安田　博之、山下　勝司、斉藤　光男、上久保重次、風間　勝也、大東　秀明、川邊　孝夫、平塚　一彦、竹内　佳明、山川　博行、中浦　悟、浜野　大助、庄司　勝三、石川　直樹、村木　啓作、夏目　眞治、名倉　昭弘、秋永　昭治、吉田　博二、中村　博幸、千葉　英之、中井　公人、田中　秀和、小澤　敏正、森江　和吉、森安　昭雄、高野　修、加藤　晃、松本　育男、長尾　輝夫、田中　達男、武田　末男、川村　浩之、末次　功、石井　通義、大宮　泉、冨松　秋實、税所　健好、西花　丈雄、新垣　健、朝生　和光、斉藤　節郎、阿部　富夫、三辻　陽夫、川原　繁樹、市田　隆文　**【北海道】**加藤　慶仁　**【岩　手】**中舘　豊、上町　祐隆、高橋　元一　**【茨　城】**浜田　裕一、阿部　研一、亀崎　一男**【栃　木】**石田　正彦　**【群　馬】**品田　鮎美
【埼　玉】吉原　伯、佐藤　秀明、山口たまき、吉増　要、吉増　和美、沼田彩友美、根城　泰　**【千　葉】**千葉　裕典、舎利弗芳子、柳田　美子、平田　優斗　**【東　京】**緑川　正博、有田　美恵、千葉　栄一、増田美穂子、渡邊　佳英、塩川　安賢、杉山　茂、森田　徹、出原　理、中澤　重夫、西岡　雅樹、市川　央人、大塚　文雄、兼子　真、菊地　知男、梶間　珠美　**【神奈川】**石井　美和、松岡　正彦、近久　紀人、島田　信弘、棚村　友博、中丸　英一、佐分　正典、萩原　裕太、木本　一成、斉藤　航大、飯田純一郎、武士　智子、武士　浩昭、久保　公雄、久保　靖子、吉澤　和美、萬福　利香　**【富　山】**金原　至、吉田　守　**【石　川】**酒谷　信彦、北岡　克彦　**【愛　知】**高井　久美、西川　勤也、浅野　克彦、村木　啓作、山本　幸代、川合　育郷、西口　貴子、鈴木　孝明　**【岐　阜】**森　勝博、森　三千世、永井　利佳、河野　公昭　**【三　重】**加藤　公、貝沼　圭吾、伊藤みち子、伊藤　克巳
【大　阪】吉田　敏明、草井　文子、大里　佳之、森　健一郎、佐藤　達宗、大西　和雄　**【広　島】**大橋　季彦、山下　明子、沖本　信和、小山　章　**【山　口】**野村　晃久　**【福　岡】**松尾　勝也　**【熊　本】**陣上　修一、宮本　和彦、坂口　満　**【沖　縄】**大城　一樹

※お詫びと訂正
前号の５月号の「会員のご紹介」で、群馬県「伊﨑克巳」さんのお名前を、誤って「﨑」の字が脱落して記載いたしました。まことに申し訳ございません。ここにお詫びとともに訂正をさせていただきます。

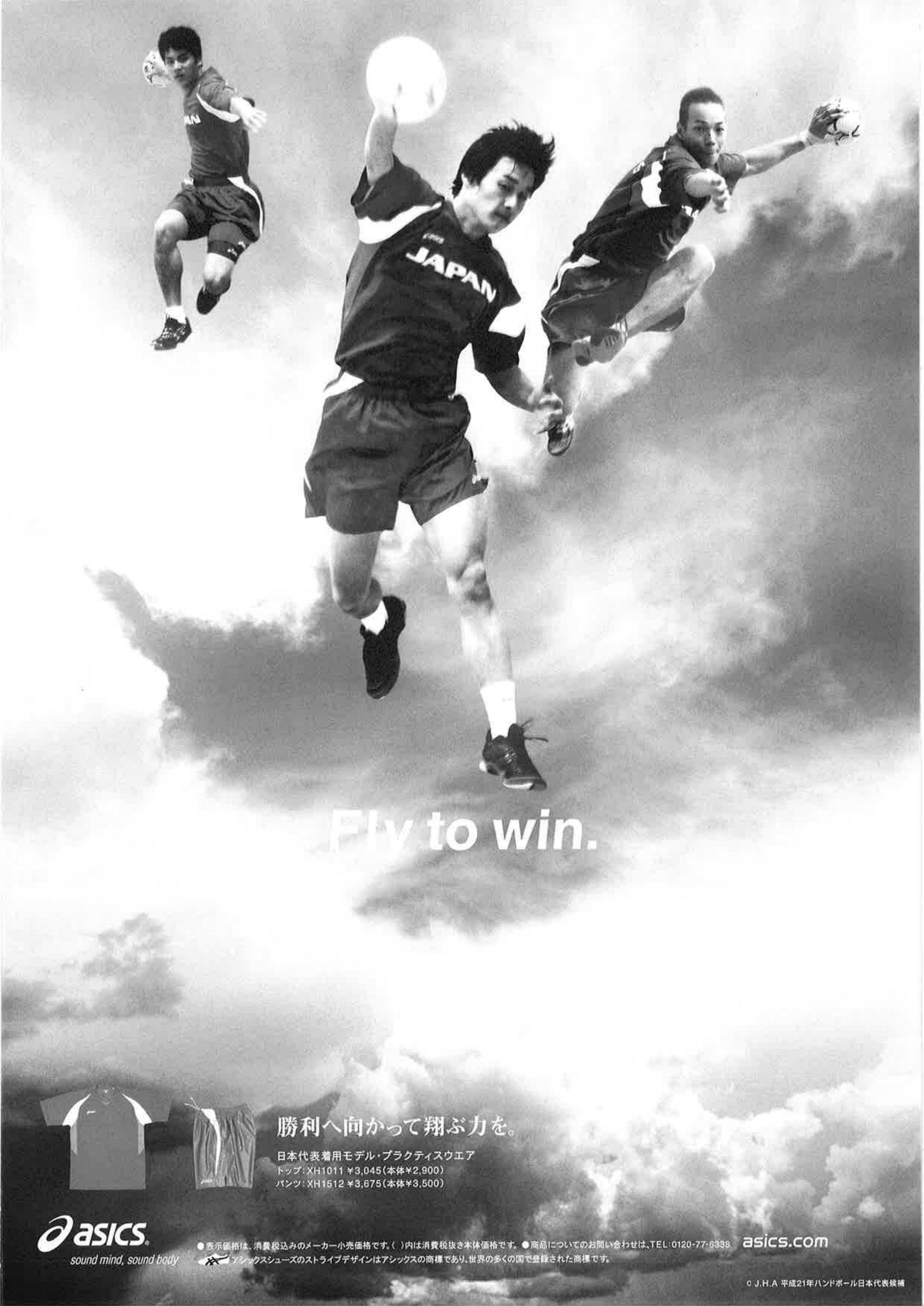
【7月の行事予定】

【会　議】……………………………………………………
7月10日(土)　常務理事会（東京）

【大　会】……………………………………………………
7月３日（土）～15日（木）
第４回男子ユース・アジア選手権（UAE・アブダビ）
7月７日（水）～11日（日）
第51回全日本実業団選手権大会（徳島県徳島市）
7月10日（土）～14日（水）
西日本学生選手権大会（岡山県岡山市）
7月16日（金）～18日（日）
第30回全国クラブ選手権大会・東（福島県本宮市）
7月17日（土）～８月１日（日）
第17回女子ジュニア世界選手権（韓国）
7月22日（木）～25日（日）
第15回ヒロシマ国際大会（広島県広島市）
7月23日（金）～８月６日（金）
第12回男子ジュニア・アジア選手権（イラン・テヘラン）
7月30日（金）～８月１日（日）
第23回全国小学生大会（京都府京田辺市）

HAND BALL CONTENTS Jun. Jul.

（登録チームの購読料は登録料に含む）


Fly to win.
勝利へ向かって翔ぶ力を。
日本代表着用モデル・プラクティスウエア
トップ：XH1011 ¥3,045（本体¥2,900）
パンツ：XH1512 ¥3,675（本体¥3,500）
asics
sound mind, sound body
●表示価格は、消費税込みのメーカー小売価格です。( )内は消費税抜き本体価格です。●商品についてのお問い合わせは、TEL:0120-77-6338
asics.com
アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。
© J.H.A 平成21年ハンドボール日本代表候補

(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第五一〇号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成二十二年六月二十六日印刷　平成二十二年七月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表〇三－三四八一－二三六二
振替　〇〇一二〇－七－一〇一九三
編集兼発行人　川上憲太
定価　年間三三〇〇円

